

サラリーマン世帯の主婦 500 名に聞く

2013 年夏のボーナスと 家計の実態調査

～“わが家の生活防衛策”第 26 弾～

2013 年 7 月



損保ジャパン・ディー・アイ・ワイ生命保険株式会社

目 次

■調査概要	1
■調査結果	4

I この夏のボーナス

1. この夏のボーナスの手取り額	5
2. この夏のボーナスと昨年夏のボーナスとの増減比較	7
3. ボーナスの今後の見通し	8
4. 今回のボーナスの主な使い道	10
5. ボーナスの中から夫に渡した（渡そうと考えている）小遣いの額	14
6. 臨時ボーナスをあげたいと思う人とあげたいボーナス額	16
7. 今年の夏のボーナスを「川柳」にすると	19

II わが家の家計と金融資産

1. 家計についての現状認識	21
2. 家計の中で、これだけは削りたくない・お金をかけたいと思う支出	23
3. 今後の家計の見通し	24
4. 世帯の金融資産の増減	26
5. 家計において「アベノミクス効果」が感じられるか	30
6. 家計の消費に変化は出てきているか	32
7. もし国内旅行するならどの都道府県に行きたいか	35
8. 「ネット選挙」を、政党や候補者の情報収集に活用したいと思うか	37
9. 夫が出世するために投資できること	39

III 夫に内緒の資産

1. 『夫に内緒の資産』の保有状況	40
2. 『夫に内緒の資産』の保有額	42
3. 『夫に内緒の資産』を持つ目的	44
4. 『夫に内緒の資産』はどのようにして得たものか	45
5. 『夫に内緒の資産』の増減	47
6. 『夫に内緒の資産』の保有形態について	50
7. 『夫に内緒の資産』の今後の見通し	52

調査概要

1. 調査の目的

損保ジャパン・ディー・アイ・ワイ生命保険株式会社では、家計を切り盛りしている主婦がわが家の家計をどのように感じ、将来に向けてどのような展望を持っているのかを探るため、2002 年 3 月からサラリーマンの夫を持つ主婦を対象に“わが家の生活防衛策シリーズ”と題して家計の実態調査を実施してまいりました。

26 回目となる今回は、2013 年夏に受給した夫のボーナスに対する主婦の反応や家計に関する意識と実態、今後の家計の見通しや生活防衛策などを明らかにすることを目的に「サラリーマン世帯の主婦 500 名に聞く、ボーナスと家計の実態調査」を実施しました。

2. 調査の実施要領

(1) 調査対象及びサンプル数

一般企業に勤めるサラリーマン世帯の 20 歳から 59 歳の主婦 500 人

< サンプル配分 >

合計	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳
500	125	125	125	125

(2) 調査方法

インターネット調査

(3) 調査時期

平成 25 年6月7日(金)～6月 12 日(水)

(4) 調査項目

- ・この夏のボーナスの手取り額、昨年と比較した増減額
- ・今後の増減見通し
- ・ボーナスの主な使い道
- ・ボーナスの中から夫に渡した小遣いの額
- ・臨時ボーナスをあげたいと思う人とあげたいボーナス額
- ・今年の夏のボーナスを「川柳」にすると
- ・家計の現状と今後の家計の見通し
- ・家計の中で削りたくない支出
- ・世帯の金融資産の増減
- ・家計において「アベノミクス効果」が感じられるか
- ・家計の消費の変化
- ・国内旅行で行きたい所
- ・「ネット選挙」を情報収集に活用したいか
- ・夫が出世するために投資できること
- ・夫に内緒の資産保有について
- ・回答者と回答者世帯の基本属性(妻の職業、世帯構成、夫の役職、世帯年収、等)

3. 回答者及び回答者世帯の基本属性

上段：件数、下段：割合（単位＝％）

F1. 妻の年齢

（平均：39.8 歳）

サンプル数	20～ 24 歳	25～ 29 歳	30～ 34 歳	35～ 39 歳	40～ 44 歳	45～ 49 歳	50～ 54 歳	55～ 59 歳
500	11	114	55	70	69	56	84	41
100.0	2.2	22.8	11.0	14.0	13.8	11.2	16.8	8.2

F2. 職業

サンプル数	正 規 有 職	パート	専 業 主 婦
500	106	111	283
100.0	21.2	22.2	56.6

F3. 夫の年代

サンプル数	20 代	30 代	40 代	50 歳 以上
500	92	129	134	145
100.0	18.4	25.8	26.8	29.0

F4. 夫の勤務先での役職

サンプル数	役職 なし	係長・ 主任 クラス	課長 クラス	部長 クラス 以上
500	200	137	102	61
100.0	40.0	27.4	20.4	12.2

F5. 夫の勤務先の業種

サンプル数	水産・ 農林・ 鉱業	建設業	製造業	電気・ ガス業	運輸・ 情報通 信業	商業	金融・不 動産・サ ービス 業
500	3	28	187	33	53	35	161
100.0	0.6	5.6	37.4	6.6	10.6	7.0	32.2

F6. 世帯構成

サンプル数	夫婦 のみ	夫婦と 子	3世代 同居(4 世代同 居を含 む)	親夫婦 と子夫 婦・あ なた方 夫婦と 親	その他
500	161	282	36	14	7
100.0	32.2	56.4	7.2	2.8	1.4

F7. 扶養中の子ども

サンプル数	いる	いない
500	288	212
100.0	57.6	42.4

F8. 住まいの形態

サンプル数	一戸建て持ち家	一戸建て借家	分譲集合住宅	賃貸集合住宅	社宅・寮
500	220	14	105	141	20
100.0	44.0	2.8	21.0	28.2	4.0

F9. 現在住宅ローンの有無

サンプル数	ある	ない
500	231	269
100.0	46.2	53.8

F10. 世帯年収(税込み)

サンプル数	400万円未満	400～600万円未満	600～800万円未満	800～1000万円未満	1000万円以上
500	39	123	134	95	109
100.0	7.8	24.6	26.8	19.0	21.8

F11. 居住地区

サンプル数	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州・沖縄
500	23	14	242	74	81	16	9	41
100.0	4.6	2.8	48.4	14.8	16.2	3.2	1.8	8.2

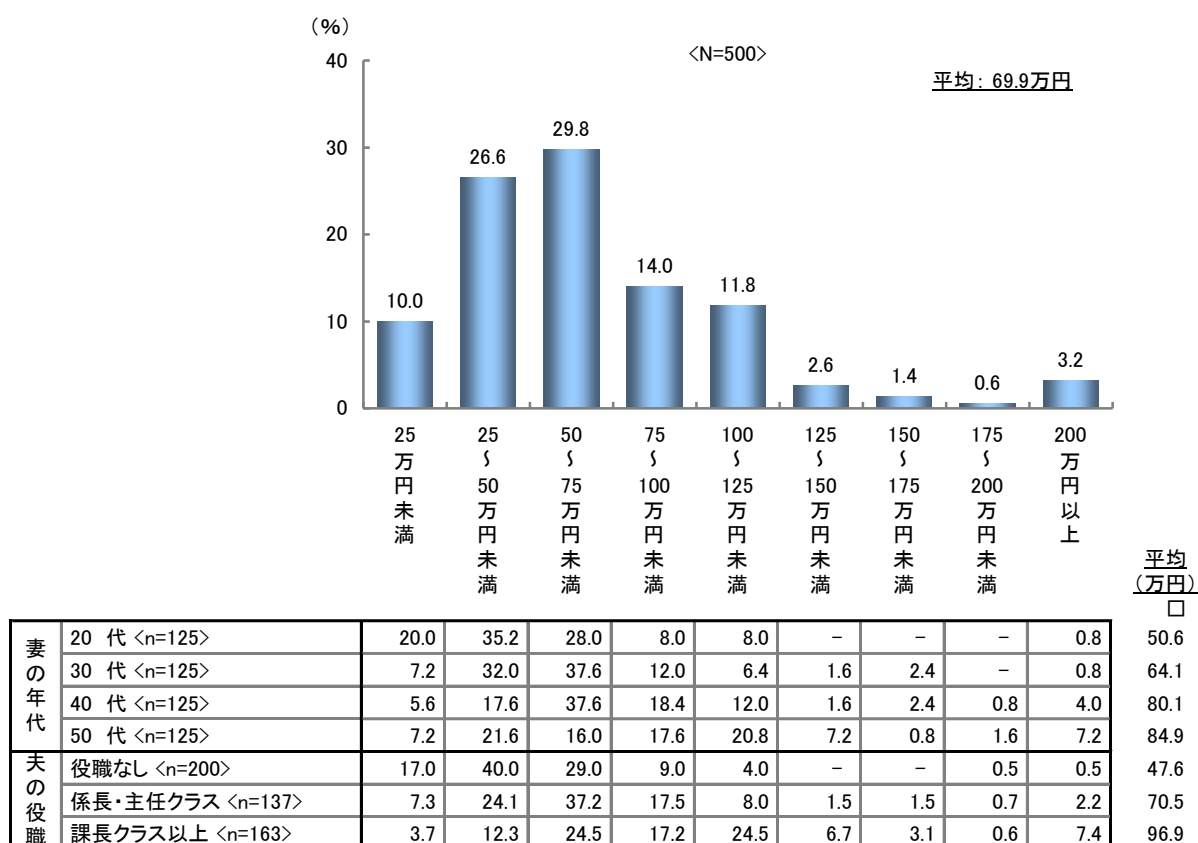
調査結果

I この夏のボーナス

1. この夏のボーナスの手取り額

この夏のボーナス平均受給額(手取り)は「69.9 万円」で、昨夏(61.1 万円)よりも 8.8 万円増えている。

図 1. この夏のボーナスの手取り額



※『この夏のボーナス』とは 2013 年夏に夫が受給したボーナスを指し、妻や子どもなど他の家族が受給したボーナスは含みません。

夫が受給したこの夏のボーナスは、手取り額でいくらだったのでしょうか。

「50～75 万円未満」(29.8%) が最も多く、続く「25～50 万円未満」(26.6%) を合わせると、“25～75 万円未満” が半数以上 (56.4%) を占めています。以下「75～100 万円未満」(14.0%)、「100～125 万円未満」(11.8%)、「25 万円未満」(10.0%) などが続き、平均は「69.9 万円」となっています。

・妻の年代別に受給額の平均をみると、年代が上の人ほど受給額も多くなっています。その額は、《40 代》(80.1 万円)、《50 代》(84.9 万円) の“80 万円台”と《20 代》(50.6 万円)、《30 代》(64.1 万円)の間ではかなりの開きが生じています。

・夫の役職別に平均をみると、役職が上がるとともに金額は高くなり、《役職なし》(47.6 万円)と《課長クラ

ス以上》(96.9 万円)では約 50 万円の差があります。

■昨夏の調査結果との比較■

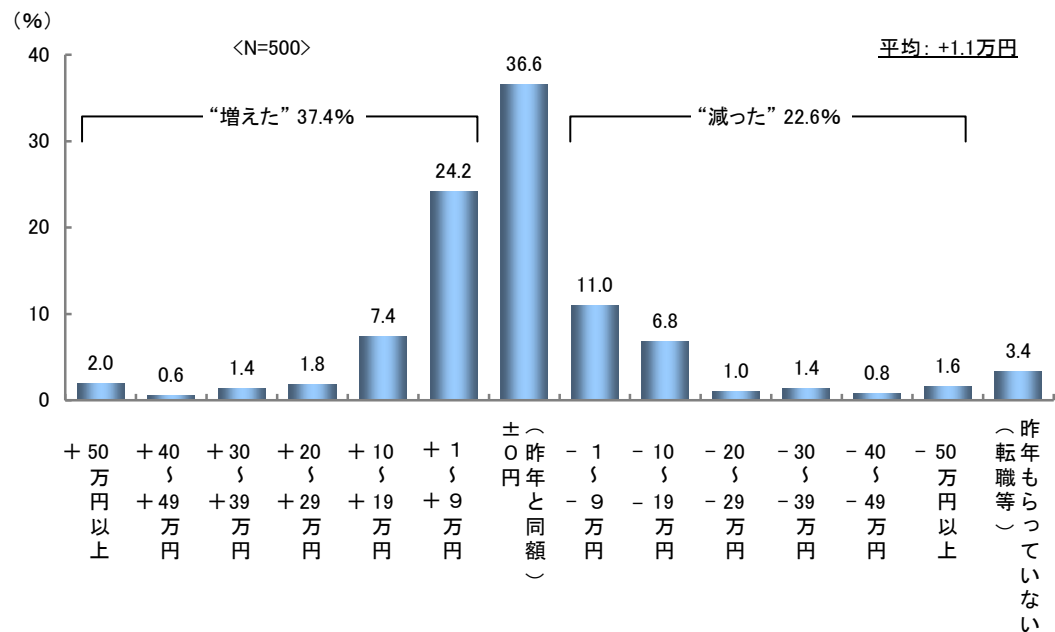
平均額は 61.1 万円→69.9 万円と、8.8 万円増加しています。

2. この夏のボーナスと昨年夏のボーナスとの増減比較

「昨年と同額」(36.6%)は減少傾向で、“増えた”(37.4%)が“減った”(22.6%)を 15 ポイントほど上回る。

※“増えた”は、「+1～9 万円」から「+50 万円以上」の合計を表します。“減った”は、「-1～9 万円」から「-50 万円以上」の合計を表します。

図 2. この夏のボーナスと、昨夏のボーナスとの増減比較



妻の年代	20 代 <n=125>	3.2	-	0.8	1.6	7.2	30.4	36.0	8.0	4.8	1.6	-	-	-	6.4
	30 代 <n=125>	-	1.6	1.6	2.4	11.2	31.2	29.6	11.2	6.4	-	1.6	-	1.6	1.6
	40 代 <n=125>	4.0	0.8	2.4	1.6	7.2	21.6	36.8	10.4	7.2	0.8	2.4	2.4	-	2.4
	50 代 <n=125>	0.8	-	0.8	1.6	4.0	13.6	44.0	14.4	8.8	1.6	1.6	0.8	4.8	3.2
夫の役職	役職なし <n=200>	-	-	0.5	1.0	6.5	26.5	38.0	12.0	8.0	0.5	0.5	0.5	-	6.0
	係長・主任クラス <n=137>	2.9	0.7	2.2	1.5	11.7	29.2	32.1	10.2	5.8	0.7	1.5	-	1.5	-
	課長クラス以上 <n=163>	3.7	1.2	1.8	3.1	4.9	17.2	38.7	10.4	6.1	1.8	2.5	1.8	3.7	3.1

次に、この夏のボーナスに対する増減をみると、「昨年と同額」(36.6%)も相当数みられますが、“増えた”(37.4%)が“減った”(22.6%)より 15 ポイントほど多くなっています。

- ・妻の年代別にみると、《20 代》、《30 代》では“増えた”人が 4 割台（順に 43.2%、48.0%）で、《40 代》(37.6%)、《50 代》(20.8%) に比べ若干多くなっています。なお、《50 代》では“増えた”(20.8%)より“減った”(32.0%)の方が 11 ポイントほど多くなっているのが目につきます。
- ・夫の役職別にみると、“増えた”という割合は《係長・主任クラス》(48.2%)が最も高く、次いで《役職なし》(34.5%)が続き、《課長クラス以上》(31.9%)が最も低くなっています。しかし、役職に関係なく“減った”より“増えた”人の方が多くなっています。

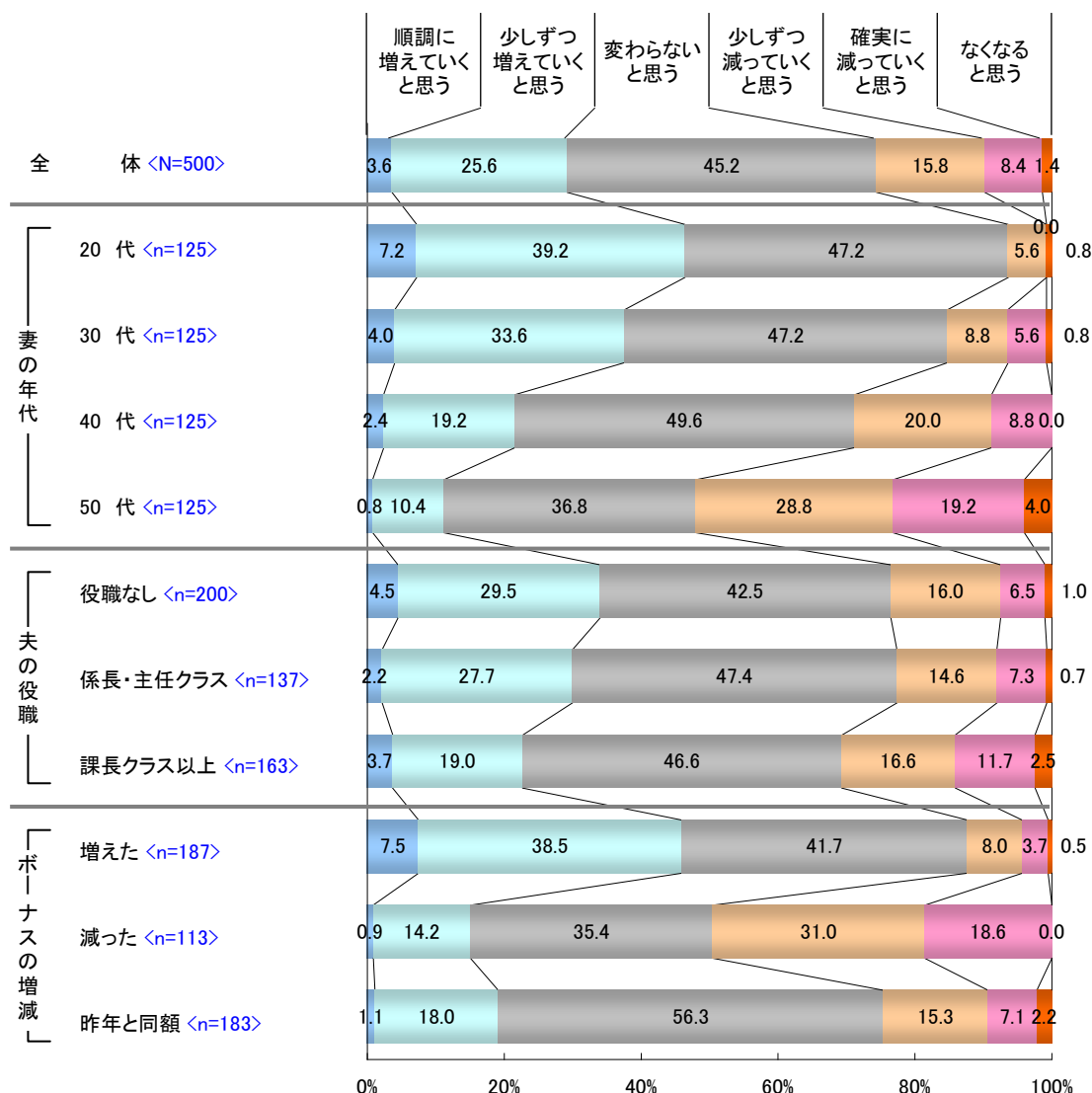
■昨夏の調査結果との比較■

“昨年と同額”(46.6%→36.6%)が 10 ポイント減り、“増えた”(24.4%→37.4%)が 13 ポイント増加しています。

3. ボーナスの今後の見通し

半数近くが“変わらないと思う”（45.2%）とみているが、“増えていくと思う”（29.2%）が“減っていく＋なくなると思う”（25.6%）よりやや多め。

図 3. ボーナスの今後の見通し



今後の夫のボーナスの見通しについて聞いてみたところ、「変わらないと思う」（45.2%）が最も多い結果となっていますが、「順調に増えていくと思う」（3.6%）と「少しずつ増えていくと思う」（25.6%）を合わせた“増えていくと思う”（29.2%）人の方が、“減っていく＋なくなると思う”（25.6%）人より若干多くなっています。

- 妻の年代別にみると、若い年代ほど“増えていくと思う”割合は高くなっており、《20代》では半数近くの46.4%を示しているのに対し、《50代》では1割強（11.2%）にとどまっています。《20代》《30代》では“減っていく＋なくなると思う”より“増えていくと思う”人の方が多くなっていますが、《40代》《50代》では逆転しています。特に、《50代》では“減っていく＋なくなると思う”が半数強（52.0%）を占めています。

- 夫の役職別にみると、《役職なし》や《係長・主任クラス》では“減っていく＋なくなると思う”（ともに2割台）より“増えていくと思う”人の方が多くなっていますが、《課長クラス以上》になると、“減っていく＋なくなると思う”（30.8%）が“増えていくと思う”（22.7%）を8ポイント上回っています。

- ・前述した今夏のボーナスの増減別にみると、《増えた》人の半数近く（46.0%）は“増えていくと思う”と明るい見通しを持っているのに対し、《減った》人では“減っていく＋なくなると思う”（49.6%）が半数を占めています。《減った》人で“増えていくと思う”とする人は1割強（15.1%）にとどまっています。また、《昨年と同額》という人は“減っていく＋なくなると思う”（24.6%）が“増えていくと思う”（19.1%）よりやや多めになっています。

■昨夏の調査結果との比較■

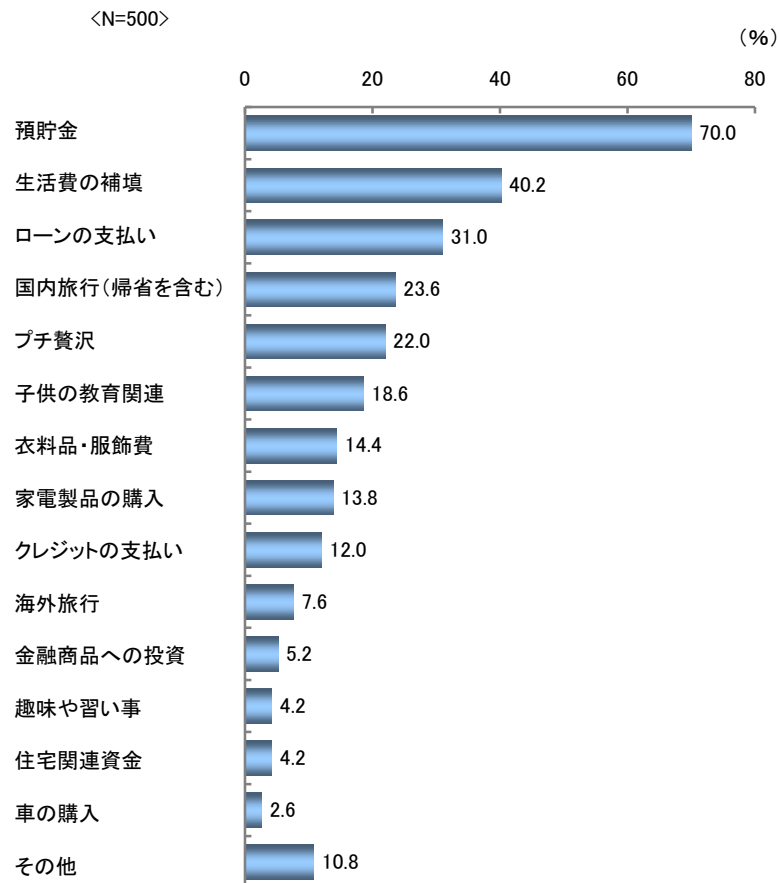
昨夏の調査結果と比べると、“増えていくと思う”（26.2%→29.2%）がやや増加し、“減っていく＋なくなると思う”（35.4%→25.6%）が10ポイントほど減少しており、今後のボーナスについては明るい見方がやや増加しているようです。

4. 今回のボーナスの主な使い道

第一に「預貯金」(70.0%)。以下「生活費の補填」(40.2%)、「ローンの支払い」(31.0%)、「国内旅行(帰省を含む)」(23.6%)、「プチ贅沢」(22.0%)が続く。

●ボーナス総額に占める各用途別金額の内訳は、「預貯金」がほぼ4割弱(37.7%)を占める。

図 4. 今回のボーナスの主な使い道（複数回答）



今回のボーナスの使い道についてみると、「預貯金」(70.0%)が群を抜いており、次いで「生活費の補填」(40.2%)、「ローンの支払い」(31.0%)が続き、“将来への備え”や“家計のやりくり”に使う人が多くなっています。以下、「国内旅行(帰省を含む)」(23.6%)、「プチ贅沢」(22.0%)、「子供の教育関連」(18.6%)、「衣料品・服飾費」(14.4%)、「家電製品の購入」(13.8%)、「クレジットの支払い」(12.0%)が続いています。

表 1. 今回のボーナスの主な使い道（複数回答：属性別）

			(%)														
		サンプル数	預貯金	生活費の補填	ローンの支払い	国内旅行（帰省を含む）	プチ贅沢	子供の教育関連	衣料品・服飾費	家電製品の購入	クレジットカードの支払	海外旅行	金融商品への投資	趣味や習い事	住宅関連資金	車の購入	その他
全 体		500	70.0	40.2	31.0	23.6	22.0	18.6	14.4	13.8	12.0	7.6	5.2	4.2	4.2	2.6	10.8
妻の年代	20 代	125	70.4	40.8	22.4	16.8	24.0	4.0	8.0	12.8	11.2	8.8	5.6	3.2	2.4	3.2	8.8
	30 代	125	76.0	37.6	29.6	29.6	24.0	13.6	16.8	16.8	11.2	11.2	4.8	5.6	5.6	4.0	9.6
	40 代	125	72.0	42.4	34.4	24.8	23.2	32.0	16.0	13.6	11.2	3.2	6.4	5.6	5.6	—	15.2
	50 代	125	61.6	40.0	37.6	23.2	16.8	24.8	16.8	12.0	14.4	7.2	4.0	2.4	3.2	3.2	9.6
子供	いる	288	67.4	44.8	34.4	24.7	21.2	30.6	14.2	14.6	13.5	5.6	4.2	4.2	4.5	3.8	11.5
	いない	212	73.6	34.0	26.4	22.2	23.1	2.4	14.6	12.7	9.9	10.4	6.6	4.2	3.8	0.9	9.9
ローン	ある	231	68.4	41.6	56.3	22.1	22.5	23.4	14.7	14.7	13.9	7.8	3.0	4.8	3.5	2.6	8.7
	ない	269	71.4	39.0	9.3	24.9	21.6	14.5	14.1	13.0	10.4	7.4	7.1	3.7	4.8	2.6	12.6
世帯年収	600万円未満	162	65.4	45.7	31.5	16.0	19.8	11.1	16.7	14.8	10.5	4.3	1.2	3.1	5.6	0.6	9.9
	600～800万円未満	134	71.6	45.5	32.1	23.9	26.9	12.7	16.4	14.2	18.7	8.2	4.5	6.0	3.7	3.0	11.2
	800～1000万円未満	95	71.6	38.9	31.6	26.3	20.0	25.3	8.4	14.7	8.4	6.3	8.4	3.2	5.3	1.1	10.5
	1000万円以上	109	73.4	26.6	28.4	32.1	21.1	31.2	13.8	11.0	9.2	12.8	9.2	4.6	1.8	6.4	11.9
受給額	50万円未満	183	62.8	43.2	28.4	20.2	20.2	9.3	16.9	12.0	12.0	4.9	1.6	3.3	3.8	1.1	9.8
	50～100万円未満	219	75.3	43.8	32.4	22.4	23.7	19.6	14.2	16.4	11.9	9.6	4.6	4.1	4.6	2.7	10.0
	100万円以上	98	71.4	26.5	32.7	32.7	21.4	33.7	10.2	11.2	12.2	8.2	13.3	6.1	4.1	5.1	14.3

- ・妻の年代別にみると、いずれも「預貯金」が群を抜いていますが、その割合は《50代》（61.6%）が《20代》～《40代》の7割台に比べ若干低めなのが目につきます。また、年代が上の人ほど「ローンの支払い」、若い人ほど「プチ贅沢」をあげる割合が高くなっています。なお、《40代》で「子供の教育関連」（32.0%）が他の年代よりも高くなっているのが目立ちます。
- ・独立していない子供（扶養中の子供）の有無別にみると、扶養中の子供が《いる》人では「子供の教育関連」（30.6%）、「ローンの支払い」（34.4%）、「生活費の補填」（44.8%）が《いない》人より高くなっているのが目につきます。
- ・住宅ローンの有無別にみると、ローンが《ある》人では半数以上が「ローンの支払い」（56.3%）をあげています。
- ・世帯年収別でみると、世帯年収に関係なく「預貯金」がトップですが、その割合は世帯年収が多い世帯ほど少しずつ高くなっています。また、「国内旅行（帰省を含む）」、「子供の教育関連」も同様に世帯年収が増えるとともに高い割合となっていますが、一方、世帯年収が少ない世帯ほど「生活費の補填」をあげる割合が高くなっています。なお、《1000万円以上》の層では「海外旅行」（12.8%）が他の層に比べ高くなっています。
- ・ボーナス受給額別にみると、やはりいずれも「預貯金」が最も多くなっていますが、受給額が多い人ほど「国内旅行（帰省を含む）」、「子供の教育関連」、「金融商品への投資」をあげる割合が高くなっています。

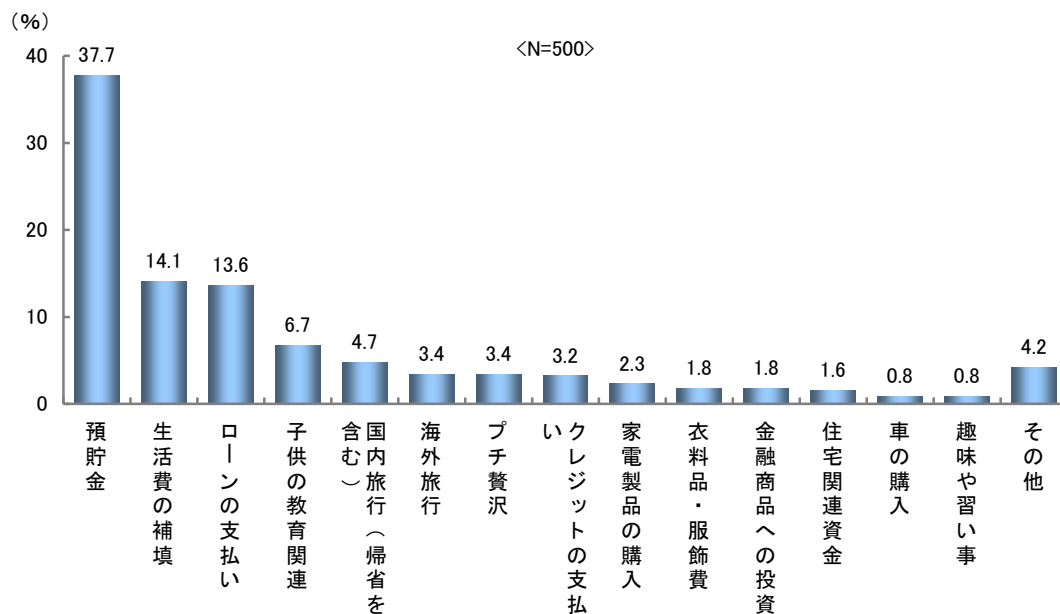
■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べると、昨年も「預貯金」が群を抜いてトップ。その割合も72.8%→70.0%と、依然7割台を維持しています。以下「生活費の補填」、「ローンの支払い」が続き、ベスト3は、昨夏も今夏も同様の

項目があげられています。

なお、「生活費の補填」(38.2%→40.2%)、「ローンの支払い」(32.6%→31.0%)、「子供の教育関連」(18.2%→18.6%)、「クレジットの支払い」(13.2%→12.0%)は昨夏と同程度の割合を示しています。一方「国内旅行」(26.6%→23.6%)、「車の購入」(2.8%→2.6%)、「家電製品の購入」(19.0%→13.8%)など、割合がやや減っている項目が目につきます。今夏のボーナスでは“消費拡大”は期待薄のようです。

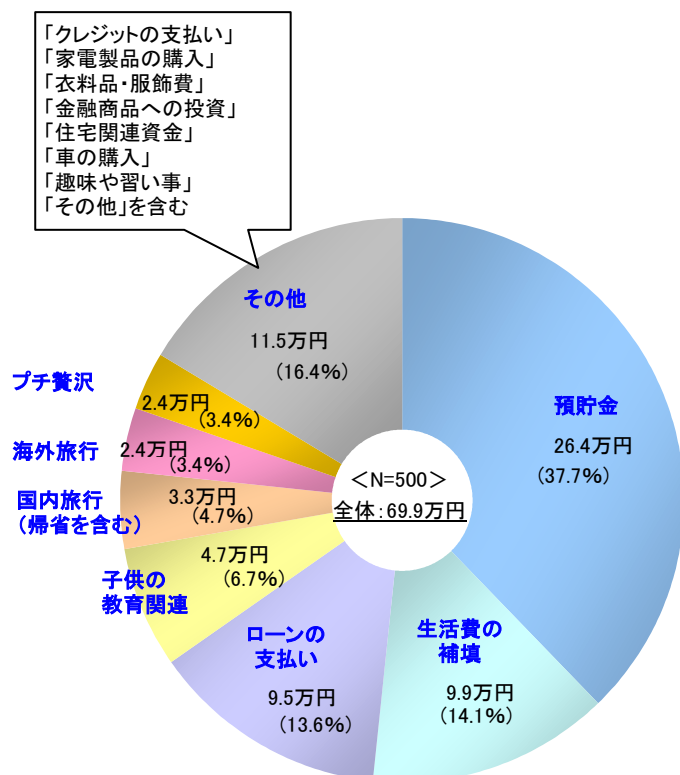
図 5. ボーナスの主な使い道が総額に占める割合（平均値）



次に、夏のボーナス全額を「10割」とした場合、それぞれの使い道が何割を占めるか答えてもらいました（グラフは平均値を100%に換算したもの）。

割合の平均値（100%換算）をみると「預貯金」（37.7%）が断然高く、ボーナス総額の4割近くが預貯金に回されている計算になります。以下「生活費の補填」（14.1%）、「ローンの支払い」（13.6%）が続く、このトップ3でほぼ3分の2（65.4%）を占めています。そのほか「子供の教育関連」（6.7%）、「国内旅行（帰省を含む）」（4.7%）、「海外旅行」（3.4%）、「プチ贅沢」（3.4%）、「クレジットの支払い」（3.2%）などとなっています。

図 6. ボーナスの主な使い道が総額に占める割合（この夏のボーナス平均手取額 69.9 万円を総額とし、金額に換算）



参考までに、今回の夏のボーナスの平均手取額「69.9 万円」を前ページの割合で配分した場合、それぞれの使い道がいくらになるかをみると、トップの「預貯金」は「26.4 万円」となりました。

※例えば「国内旅行（帰省を含む）」は「3.3 万円」と、実際にはもっと費用がかかることが多いはずですが、500 名の回答を平均でならずと、一家庭当たり「3.3 万円」に当たることを示しています。

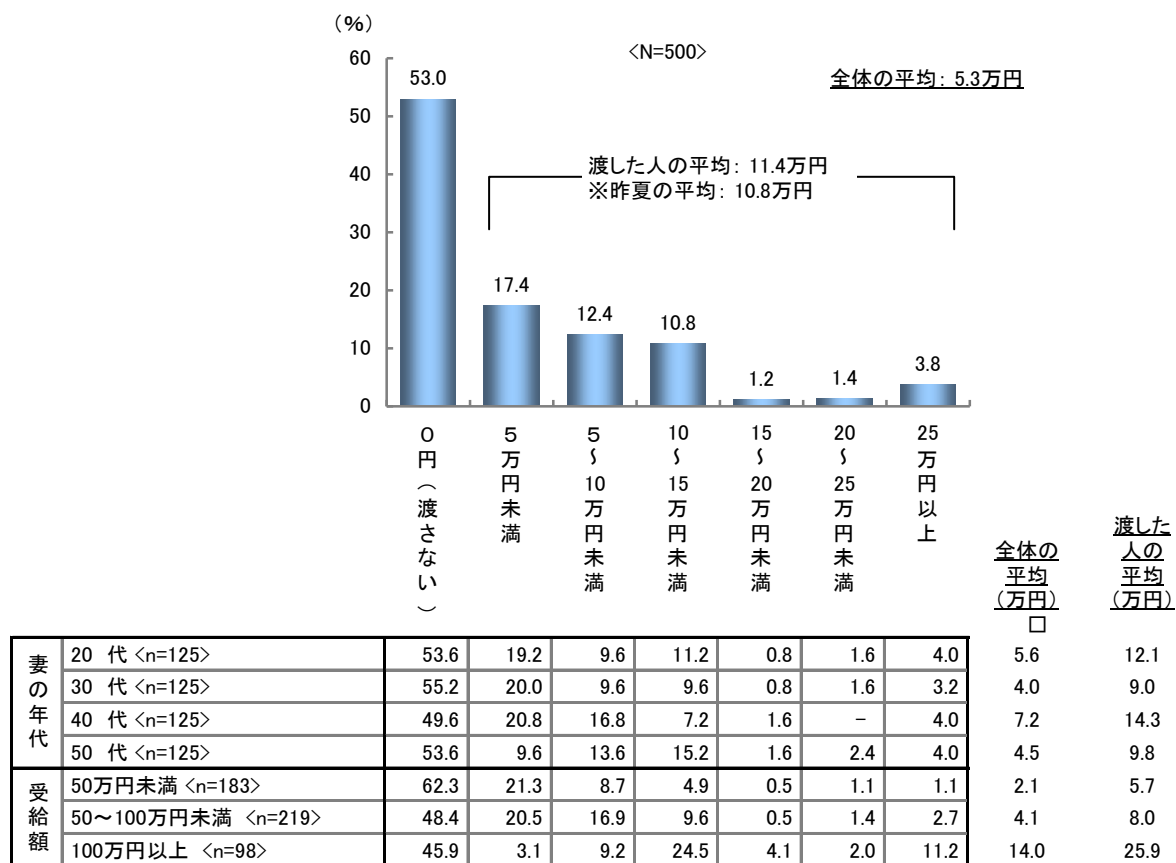
5. ボーナスの中から夫に渡した（渡そうと考えている）小遣いの額

「0円(渡さない)」(53.0%)人が半数強を占める。

“渡した(渡そうと思っている)”人(47.0%)では、「5万円未満」(17.4%)が最も多く、“渡した(渡そうと思っている)”人の平均金額は「11.4万円」。

◆渡さない理由は、「必要な時にはその都度渡しているので」(37.0%)、「毎月お小遣いを渡しているので」(26.8%)、「将来に備えることの方が大事なので」(21.1%)がトップ3。

図 7. ボーナスの中から夫に渡した（渡そうと考えている）小遣いの額



今回のボーナスの中から、夫に小遣いとして渡した、あるいは渡そうと思っている金額を具体的に聞いてみました。

「5万円未満」(17.4%)、「5～10万円未満」(12.4%)、「10～15万円未満」(10.8%)など、夫に小遣いとして“渡した、あるいは渡そうと思っている”人が47.0%と、半数を割っています。一方、「0円(渡さない)」という人も半数強(53.0%)おり、ほぼ二分された結果です。平均は、「0円(渡さない)」人を含めた全体でみると「5.3万円」、「渡した(渡そうと思う)”人に限ってみると「11.4万円」です。

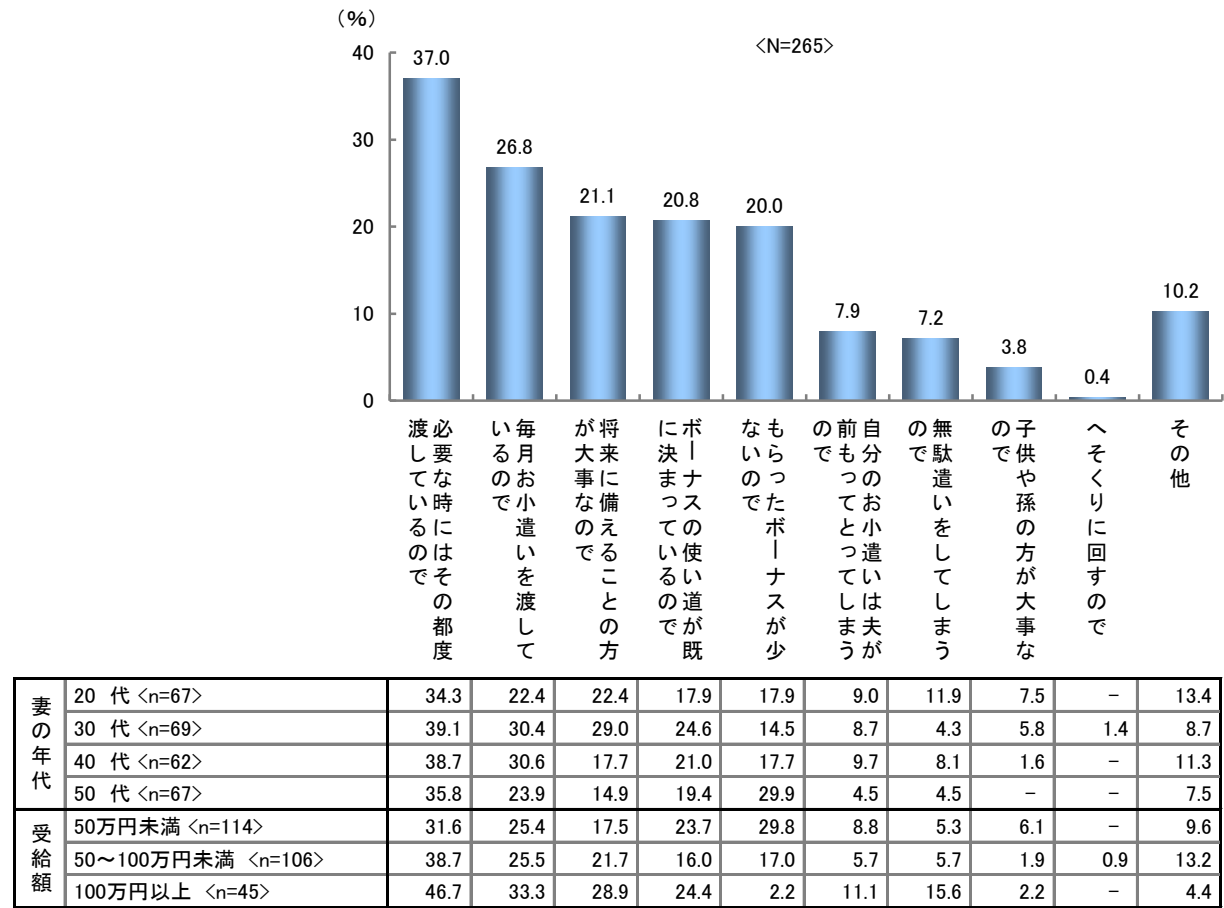
- ・妻の年代別に“渡した(渡そうと思う)”人の平均金額をみると、“渡した(渡そうと思う)”割合が最も高い《40代》(50.4%)の平均が「14.3万円」と最も多く、以下《20代》(12.1万円)、《50代》(9.8万円)と続き、“渡した(渡そうと思う)”割合が最も低い《30代》(44.8%)は「9.0万円」です。
- ・ボーナスの受給額別にみると、受給額が多い人ほど“渡した(渡そうと思う)”割合が高く、その渡した平均金額も多くなっています。受給額《50万円未満》では、“渡した(渡そうと思う)”割合が37.7%、平均が「5.7万円」であるのに対し、《100万円以上》では、割合が54.1%、平均が「25.9万円」とかなりの差がみ

られます。

■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べると、“渡した（渡そうと思う）”（51.2%→47.0%）が5ポイント近く減少していますが、渡した額の平均は10.8万円→11.4万円と、わずかですが増えています。

図 8. 「渡さない」理由（複数回答）



では、なぜボーナスの中から夫に小遣いを渡さないのでしょうか。

その理由をみると、「必要な時にはその都度渡している」で（37.0%）が最も多く、以下「毎月お小遣いを渡している」で（26.8%）、「将来に備えることが大事なので」（21.1%）、「ボーナスの使い道が既に決まっている」で（20.8%）、「もらったボーナスが少ない」で（20.0%）が続いています。

中には、「自分のお小遣いは夫が前もってとってしまう」で（7.9%）といった“チャッカリ型亭主”もみられます。また、「子供や孫の方が大事なので」（3.8%）、「へそくりに回すので」（0.4%）という人も少数派ながらいいます。

- ・妻の年代別にみると、若い《20代》《30代》で「将来に備えることが大事なので」が2割台（順に22.4%、29.0%）と、《40代》《50代》（順に17.7%、14.9%）に比べて高くなっているのが特徴的です。
- ・ボーナスの受給額別にみると、受給額が少ない人ほど、当然の結果ですが「もらったボーナスが少ない」の割合が高く、《100万円以上》ではわずか2.2%であるのに対し、《50万円未満》では29.8%と大差が生じ、「必要な時にはその都度渡している」（31.6%）に次いで第2位の理由にあげられています。

6. 臨時ボーナスをあげたいと思う人とあげたいボーナス額

＜芸能界＞では「指原莉乃（HKT48）」（12 件）、＜スポーツ界＞では「本田圭佑」（51 件）、＜その他の分野＞では「自分」（8件）がそれぞれトップ。

◆渡してあげたいボーナス金額（平均）は、「福山雅治」（6 件：1,950 万円）、「嵐」（9 件：964 万円）、「SMAP」（4 件：750 万円）がトップ3。

2013 年前半に活躍した人やグループで臨時ボーナスをあげたいと思う人を、芸能界、スポーツ界、その他の分野に分けて自由にあげてもらいました。

表 2. 臨時ボーナスをあげたいと思う人（芸能界）

芸能界			平均金額 (万円)	最高額 (万円)
順位		件数		
1	指原莉乃(HKT48)	12	61	200
2	嵐	9	964	5,000
3	中村昌也	8	675	4,000
4	キンタロー。	7	64	100
5	AKB48	6	215	1,000
	福山雅治	6	1,950	10,000
7	マツコデラックス	5	94	100
8	有吉弘行	4	313	1,000
	スギちゃん	4	75	100
	SMAP	4	750	1,000
	その他	62	363	5,000

＜芸能界＞では、先の“AKB総選挙”で1位に選ばれた「指原莉乃（HKT48）」（12 件）がトップ、以下「嵐」（9 件），“離婚騒動”で同情を集めた「中村昌也」（8 件）がトップ3となっています。また、グループとして「AKB48」（6 件）も第5位にあげられており、「AKB48」（およびその姉妹グループ）は依然として“国民的アイドル”として、圧倒的な支持を得ているようです。

渡してあげたいボーナス金額（平均）は、トップの「指原莉乃」が61万円、続く「嵐」が964万円、「中村昌也」が675万円となっています。グループとしての「AKB48」は215万円です。

表 3. 臨時ボーナスをあげたいと思う人（スポーツ界）

スポーツ界			平均金額 (万円)	最高額 (万円)
順位		件数	□	
1	本田圭佑	51	740	10,000
2	錦織圭	21	549	5,000
3	ダルビッシュ有	10	501	1,000
4	浅田真央	7	301	1,000
	イチロー	7	196	1,000
	サッカー日本代表	7	621	2,000
7	香川真司	6	476	2,000
8	内村航平	5	166	500
9	石川遼	4	308	1,000
	大谷翔平	4	78	100
	吉田沙保里	4	138	300
	その他	32	463	10,000

＜スポーツ界＞では、次回のサッカーワールドカップの出場を PK で決めた「本田圭佑」（51 件）がトップ。以下「錦織圭」（21 件）、「ダルビッシュ有」（10 件）、「浅田真央」「イチロー」「サッカー日本代表」（各 7 件）、「香川真司」（6 件）が続いています。サッカー選手、野球選手が多い中、テニスの「錦織圭」、スケートの「浅田真央」の存在が目立ちます。

渡してあげたいボーナス金額（平均）は、1 位の「本田圭佑」が 740 万円、2 位の「錦織圭」が 549 万円、3 位「ダルビッシュ有」が 501 万円となっています。

表 4. 臨時ボーナスをあげたいと思う人（その他）

その他			平均金額 (万円)	最高額 (万円)
順位		件数	□	
1	自分	8	83	200
2	林修(東進ハイスクール)	6	109	300
3	橋下徹	5	156	500
	安倍晋三	5	101	300
5	DJポリス	4	65	100
	三浦雄一郎	4	563	1,000
	その他	21	110	1,000

＜その他の分野＞では、トップは「自分」（8 件）、次いで“今でしょう！”のフレーズで有名な「林修（東進ハイスクール）」（6 件）、以下「橋下徹」「安倍晋三」（各 5 件）、「D J ポリス」「三浦雄一郎」（各 4 件）が続いています。

渡してあげたいボーナス金額（平均）は、1 位の「自分」には 83 万円、続く「林修」が 109 万円、「橋下徹」が 156 万円、「安倍晋三」が 101 万円となっています。

表 5. <参考：総合得票・ボーナス金額（平均）トップ10>

順位		得票数
1	本田圭佑	51
2	錦織圭	21
3	指原莉乃(HKT48)	12
4	ダルビッシュ有	10
5	嵐	9
6	中村昌也	8
	自分	8
8	キンタロー。	7
	浅田真央	7
	イチロー	7
	サッカー日本代表	7

順位		平均金額 (万円)
1	福山雅治	1,950
2	嵐	964
3	SMAP	750
4	本田圭佑	740
5	中村昌也	675
6	サッカー日本代表	621
7	三浦雄一郎	563
8	錦織圭	549
9	ダルビッシュ有	501
10	香川真司	476

■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の第1位と比べると、

【芸能界】 「AKB48」(29件) → 「指原莉乃(HKT48)」(12件)

【スポーツ界】 「澤穂希」(23件) → 「本田圭佑」(51件)

【その他】 「自分」(9件) → 「自分」(8件)

となっており、【芸能界】では引き続き「AKB48」の人気の続いています。【スポーツ界】では、最近大きなイベントのない女子サッカーの“なでしこジャパン”から、ワールドカップ出場を決めた男子サッカーの日本代表に関心が移行しているようです。

7. 今年の夏のボーナスを「川柳」にすると

「ボーナス日 いつもと同じ 夕ご飯」「ボーナス出 嬉しいはずが 悲しい日」「サラリーマン アベノミクスは まだ遠い」
「ボーナスで 楽しい夏が やってくる」「ないものと 思っていれば 幸せに」など、受給額によって悲喜こもごも。

表 6. 川柳に詠まれた主な内容

順位		件数
1	家計のやりくりの大変さ	85
2	ボーナスの額を見てガッカリした気持ち	46
3	世相を反映	34
4	使い道は貯蓄が最優先	20
5	ボーナスが出たことへの感謝	19
6	夫への感謝の気持ち	16
7	ボーナスが出ただけマシ	15
8	使い道は旅行や食事	13
9	ボーナスに期待していない	10
10	ボーナスの額を見て喜んだ気持ち	9
11	今後のボーナスが不安	8

夏のボーナスを受け取った時の気持ちを題材に、家計を預かる主婦に「川柳」を作ってもらいました。

ボーナスをもらってもすぐに家計の穴埋めに消えてしまう「家計のやりくりの大変さ」(85 件)を詠んだものや、「ボーナスの額を見てガッカリした気持ち」(46 件)、「使い道は貯蓄が最優先」(20 件)、「ボーナスが出ただけマシ」(15 件)といった“現状の厳しさ”を詠むものが多くなっていますが、「ボーナスが出たことへの感謝」(19 件)、「夫への感謝の気持ち」(16 件)といった“感謝の気持ち”を表す川柳も少なくありません。

また、「世相を反映」(34 件)はいわゆるアベノミクスにからめて詠んだものが多くなっています。

なお、昨夏の川柳と比べると、ともに「家計のやりくりの大変さ」が1位、「ボーナスの額を見てガッカリした気持ち」が2位となっていますが、次いで3位の「世相を反映」が8位→3位と増えているのは、アベノミクスを読み込んだ句が多いのが影響しています。

実際に詠まれた川柳の代表例は以下の通りです。

【家計のやりくりの大変さ】

- ・金額が いくらになろうと 子供行き
- ・夏ボーナス 入るとすぐに 消えていく
- ・ボーナス日 次のボーナス 待ち遠し
- ・ボーナス日 いつもと同じ 夕ご飯
- ・ボーナスが 手元にあるのは その日だけ

【ボーナスの額を見てガッカリした気持ち】

- ・ボーナス出 嬉しいはずが 悲しい日
- ・ボーナスと 夫の髪は 正比例

【世相を反映】

- ・ やっときた アベノミクスよ ありがとう
- ・ ボーナスに アベノミクスは 関係無し
- ・ サラリーマン アベノミクスは まだ遠い

【使い道は貯蓄が最優先】

- ・ ボーナスは 銀行口座の 移動だけ
- ・ ボーナスは ないとみなして 貯金する

【ボーナスが出たことへの感謝】

- ・ ボーナス日 無事に支給で ほっとする
- ・ ボーナスは 雀の涙 でも感謝
- ・ ボーナスの うきうき感は たまらない

【夫への感謝の気持ち】

- ・ ボーナス日 夕飯一品 多くする
- ・ ボーナスデー 少し多めに ビール買う

【ボーナスが出ただけマシ】

- ・ ボーナスが 出るだけ感謝の ここ数年
- ・ ボーナスが あるだけマシと 思わねば

【使い道は旅行や食事】

- ・ ボーナスで 楽しい夏が やってくる
- ・ ボーナスが 入った途端 贅沢に

【ボーナスに期待していない】

- ・ ないものと 思っていれば 幸せに

【ボーナスの額を見て喜んだ気持ち】

- ・ ボーナスが 意外と多く みな笑顔

【今後のボーナスが不安】

- ・ ボーナスに 頼れる幸せ いつまでか

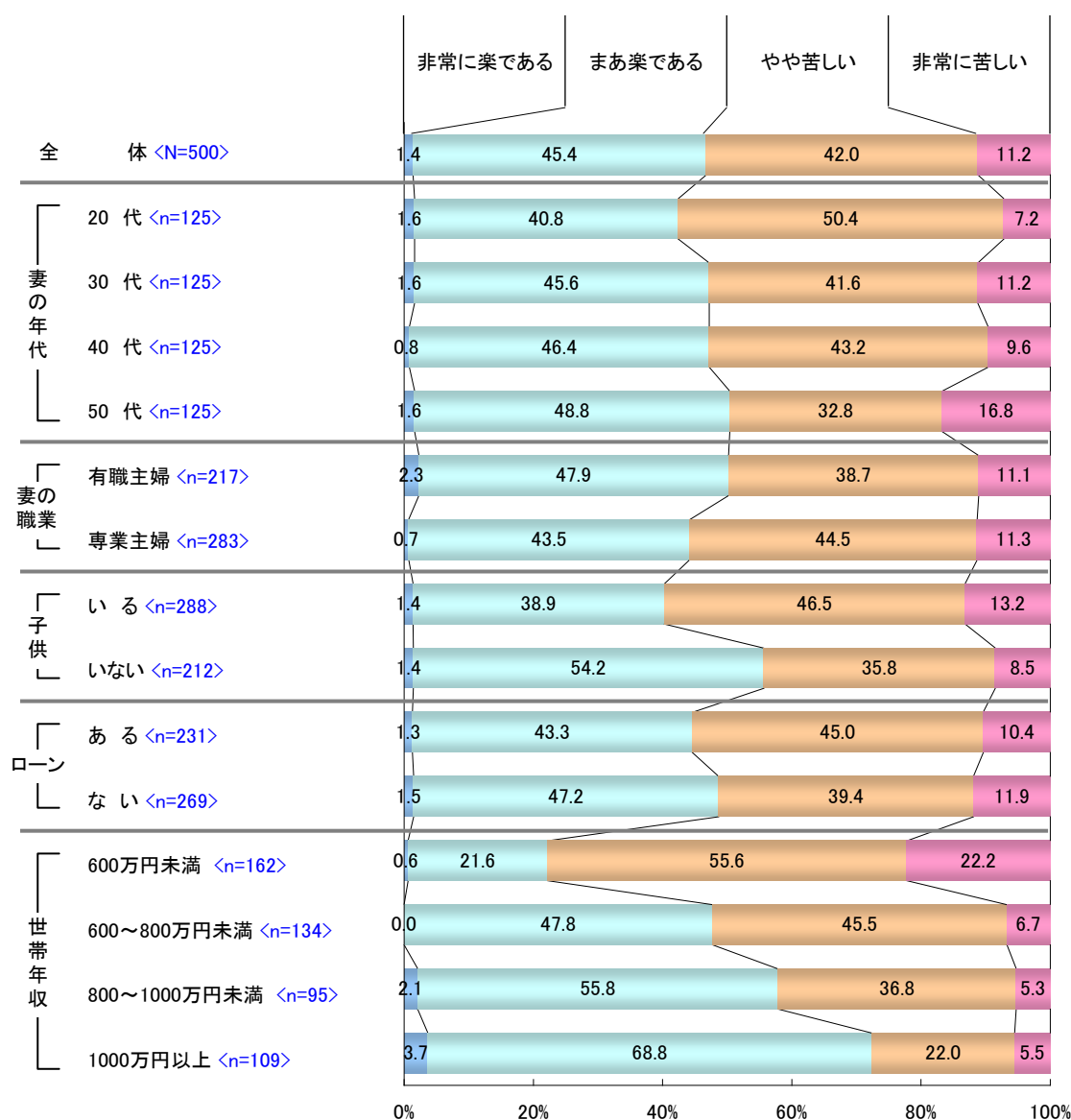
Ⅱ わが家の家計と金融資産

1. 家計についての現状認識

“苦しい”(53.2%)が半数強を占め、依然として厳しいという認識が強いが、“楽である”(46.8%)も相当数。

※“苦しい”は、「やや苦しい」「非常に苦しい」の合計、“楽である”は、「まあ楽である」「非常に楽である」の合計を表します。

図 9. 家計についての現状認識



家計をやりくりしている主婦に、現在の家計について楽か苦しいかを聞いてみたところ、「非常に楽である」(1.4%)、「まあ楽である」(45.4%)を合わせた“楽である”(46.8%)という人が半数近くを占めています。一方、「非常に苦しい」(11.2%)、「やや苦しい」(42.0%)といった“苦しい”(53.2%)という人が過半数を占めています。依然として家計は苦しい状況が続いているようです。

- ・妻の年代別にみると、年代が上の人ほど“楽である”という割合が高く、《20代》～《40代》層では“苦しい”が“楽である”を上回っていますが、《50代》になると“楽である”（50.4%）と“苦しい”（49.6%）がほぼ同数となっています。
- ・妻の職業別にみると、“苦しい”の割合は《専業主婦》（55.8%）の方が《有職主婦》（49.8%）より高くなっています。
- ・独立していない子供（扶養中の子供）の有無別にみると、“苦しい”の割合は《いる》人では6割弱（59.7%）を占めており、《いない》（44.3%）よりも15ポイントほど高くなっています。
- ・住宅ローンの有無別にみると、“苦しい”という認識はローンが《ある》（55.4%）という方が《ない》（51.3%）人より高めです。
- ・世帯年収別にみると、当然ながら年収が高くなるほど“楽である”の割合が高く、《600万円未満》（22.2%）と《1000万円以上》（72.5%）とでは家計に対する認識に大きな差が生じています。

■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べると、“苦しい”（59.8%→53.2%）がやや減少し、その分“楽である”（40.2%→46.8%）が増えています。ここ数年、家計が“苦しく”なっている状況がうかがえましたが、徐々に改善（楽である）傾向がみられそうです。

2. 家計の中で、これだけは削りたくない・お金をかけたいと思う支出

第一に「子供の教育費」(164 件)を削りたくないが、「旅行・レジャー費」(147 件)といった楽しみや、「食費」(103 件)、「外食費」(33 件)、「娯楽・教養費(新聞・書籍など)」(27 件)なども削りたくない。

表 7. これだけは削りたくない・お金をかけたいと思う支出

順位		件数
1	子供の教育費	164
2	旅行・レジャー費	147
3	食費	103
4	外食費	33
5	娯楽・教養費(新聞・書籍など)	27
6	美容費(エステ、化粧品など)	20
7	服飾・衣料費	19
8	趣味にかかる費用	17
9	医療費	14
10	貯金	13
11	交際費	9
12	車・バイクの維持費	6
13	スポーツにかかる費用	5

前述のように家計の現状を“苦しい”とみている主婦が過半数を占めていましたが、ここでは家計の中で、これだけは削りたくない・お金をかけたいと思う支出を具体的にあげてもらいました。

最も多かったのは「子供の教育費」(164 件)で、以下「旅行・レジャー費」(147 件)、「食費」(103 件)、「外食費」(33 件)、「娯楽・教養費(新聞・書籍など)」(27 件)、「美容費(エステ、化粧品など)」(20 件)などが続いています。

家計が“苦しい”からといって、「子供の教育費」だけは削りたくない・お金をかけたいと考える人が多いようです。しかし、「旅行・レジャー費」といった“楽しみ”も忘れないようです。

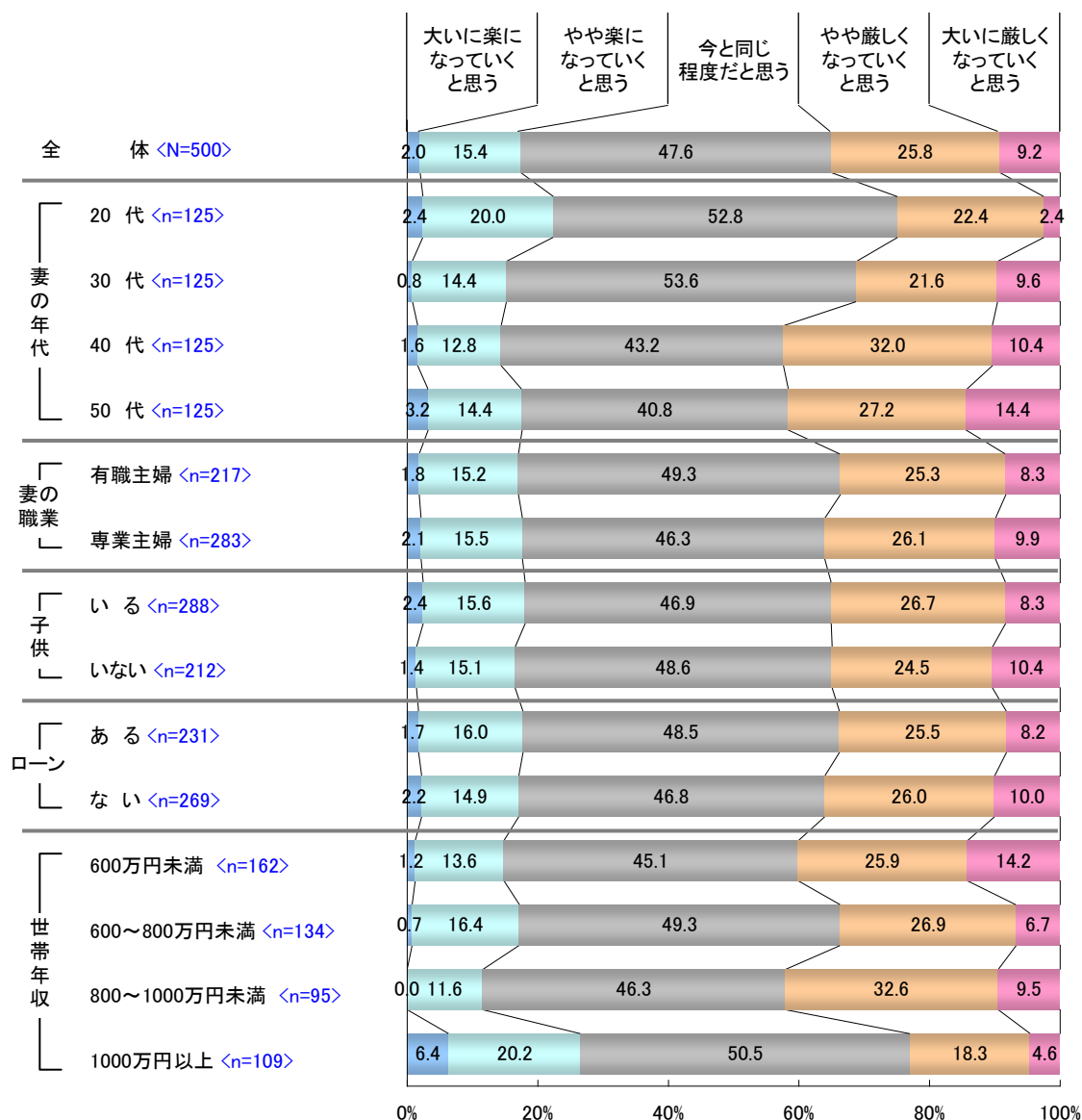
また、昨夏の結果と比べても、上位項目の順位はほとんど変わっていません。

3. 今後の家計の見通し

ほぼ半数が「今と同じ程度だと思う」(47.6%)としているが、依然“楽になっていく”(17.4%)より“厳しくなっていく”(35.0%)との見方が強い。

※“厳しくなっていく”は、「やや厳しくなっていくと思う」「大いに厳しくなっていくと思う」の合計、“楽になっていく”は、「やや楽になっていくと思う」「大いに楽になっていくと思う」の合計を表します。

図 10. 今後の家計の見通し



今後の家計の見通しを聞いたところ、“楽になっていく（大いに+やや）”（17.4%）と前向きにとらえている人は1割台にとどまり、“厳しくなっていく（大いに+やや）”（35.0%）と考えている人が3人に1人強の割合となっています。また、ほぼ半数が「今と同じ程度だと思う」（47.6%）という見方で、今後の家計の見通しについては厳しい見方が多い結果となっています。

・妻の年代別にみると、年代が上の人ほど“厳しくなっていく”との傾向がみられ、その割合は《20代》（24.8%）、《30代》（31.2%）と《40代》（42.4%）、《50代》（41.6%）の間にやや開きが生じています。

- ・妻の職業別にみると、“厳しくなっていく”割合は《専業主婦》(36.0%)の方が《有職主婦》(33.6%)より高めです。
- ・独立していない子供(扶養中の子供)の有無別にみると、“厳しくなっていく”割合は《いる》が35.0%、《いない》が34.9%と、同程度です。
- ・住宅ローンの有無別にみると、“厳しくなっていく”との見方はローンが《ある》(33.7%)と《ない》(36.0%)であまり差はみられません。
- ・世帯年収別にみると、《1000万円以上》では“楽になっていく”(26.6%)が“厳しくなっていく”(22.9%)よりやや多くなっていますが、《1000万円未満の層》ではいずれも“厳しくなっていく”の方が“楽になっていく”よりもはるかに高い割合となっています。

■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べると、“厳しくなっていく”(43.0%→35.0%)が8ポイント減少し、「今と同じ程度だと思う」(43.4%→47.6%)、“楽になっていく”(13.6%→17.4%)が、ともにやや増加しています。

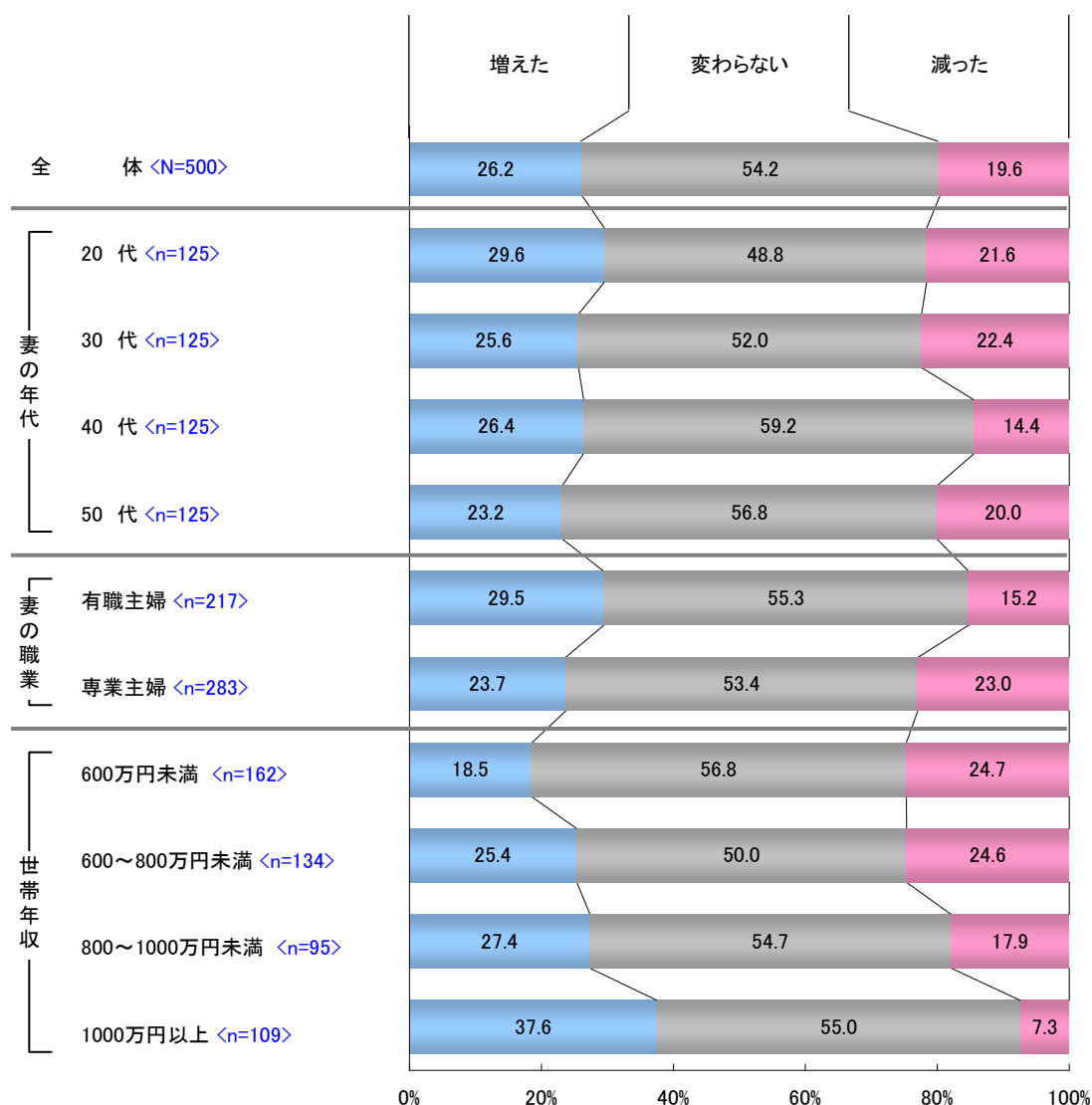
4. 世帯の金融資産の増減

「変わらない」が半数強(54.2%)を占めているが、「減った」(19.6%)よりも「増えた」(26.2%)方がやや多い。

◆「増えた」金額は平均「133.4 万円」、「減った」金額は「135.8 万円」。

◆「増えた」理由は、「こつこつ貯めたから・定期預金」(64 件)、「節約したから」(15 件)、「ボーナスを貯金したから」(13 件)など“貯金・節約”が多い中、「株などで運用益が出たので」(16 件)が目をひく。「減った」理由は、「子供の教育費に使ったから」(24 件)、「家を購入したので・住宅ローンに充てたので」(19 件)、「車を購入したので」(11 件)といったさまざまな支出があげられる。

図 11. 世帯の金融資産の増減



家庭の預貯金や運用などを合わせた「金融資産の残高」は今年 1 年で増えたか、減ったか聞いてみたところ、「変わらない」が半数強 (54.2%) を占めていますが、「増えた」(26.2%) と「減った」(19.6%) とでは「増えた」の方がやや多めです。

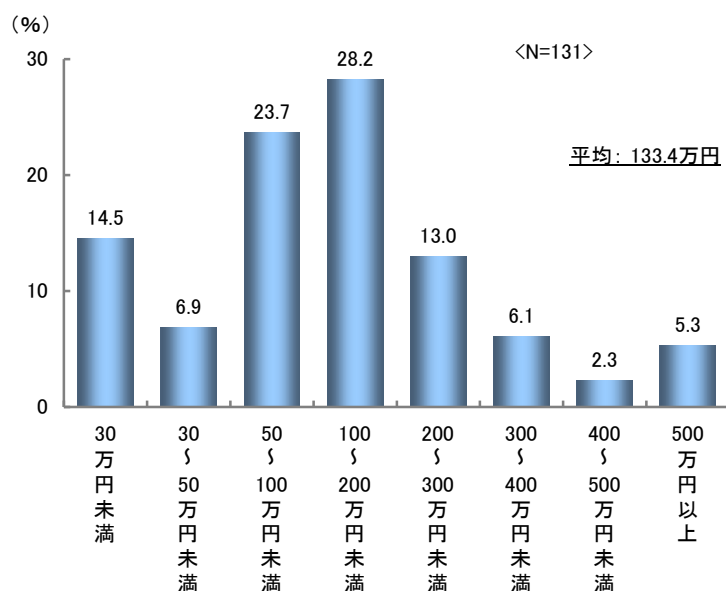
・妻の年代別にみると、いずれの年代でも「増えた」という方が「減った」よりも多くなっていますが、特に《40 代》では「増えた」(26.4%) が「減った」(14.4%) を 10 ポイント以上上回っています。

- ・妻の職業別にみると、《有職主婦》では「減った」(15.2%)よりも「増えた」(29.5%)の方がかなり高い割合ですが、《専業主婦》では「増えた」(23.7%)と「減った」(23.0%)がほぼ同率となっており、妻が有職主婦の場合の方が金融資産は増えています。
- ・世帯年収別にみると、世帯年収が高い人ほど「増えた」、低いほど「減った」の割合が高い傾向が強くみられ、《600万円未満》では「増えた」(18.5%)より「減った」(24.7%)の方が多いのに対し、《1000万円以上》の人では「減った」(7.3%)はごくわずかで、「増えた」(37.6%)が3割を超えています。

■昨夏の調査結果との比較■

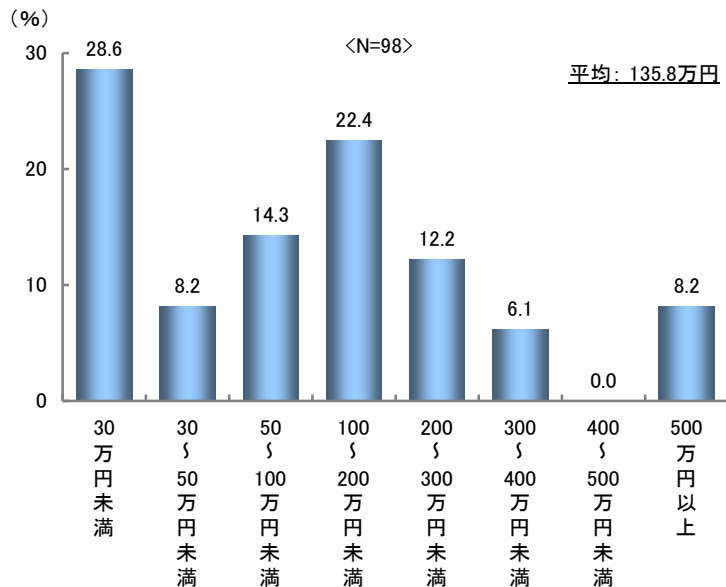
昨夏の調査結果では「増えた」(21.6%)より「減った」(24.8%)方がやや多かったのと比べ、今回は逆に「増えた」(26.2%)の方が「減った」(19.6%)よりもやや多くなっており、金融資産が増える傾向が強まっています。

図 12. 増えた額



金融資産が「増えた」と答えた人に、増えた金額を聞いてみたところ、「100～200万円未満」(28.2%)、「50～100万円未満」(23.7%)などが多く、平均「133.4万円」となっています。

図 13. 減った額



一方、「減った」金額は、「30万円未満」(28.6%)が最も多いものの、「100～200万円未満」(22.4%)、「50～100万円未満」(14.3%)などさまざまです。平均は「135.8万円」で、増えた金額(133.4万円)とほぼ同額です。

表 8. “金融資産の残高”の増減の理由(自由回答: 件)

＜増えた理由＞			＜減った理由＞			＜変わらない理由＞		
順位		件数	順位		件数	順位		件数
1	こつこつ貯めたから・定期預金	64	1	子供の教育費に使ったから	24	1	収支が変わらないため	54
2	株などで運用益が出たので	16	2	家を購入したので・住宅ローンに充てたので	19	2	ローンや生活費などで貯金できなかったから	28
3	節約したから	15	3	車を購入したので	11	3	生活に変化がなかったため	25
4	ボーナスを貯金したから	13	4	冠婚葬祭に使ったため	10	4	収入が増えても支出も多かったため	23
5	昇給などで収入が増えたから	9		収入が減ったため	10	5	貯金に手をつけていないから	15
6	自分も働くようになったので	5		医療費が増えたため	10	6	元々資産はないから	14
7	子供にかかる費用・ローンが減ったので	4	7	趣味などに使ったため	7	7	収入が減ったから	8
8	保険の支払い・退職金などの臨時収入があったから	3	8	生活費に補填したから	5	9	把握していない・夫がそう言っているから	8
			9	株や投資などで目減りした	4		特に運用などしていないから	4
							あまり大きな支出がなかったため	4

“金融資産の残高”が増減した理由を具体的に聞いてみました。

「増えた」理由は、「こつこつ貯めたから・定期預金」(64件)、「節約したから」(15件)、「ボーナスを貯金したから」(13件)など“貯金した、節約した”という理由が多くなっている中、「株などで運用益が出たので」(16件)という理由があげられているのも目につきます。

「減った」理由は、「子供の教育費に使ったから」(24件)、「家を購入したので・住宅ローンに充てたので」(19件)、「車を購入したので」(11件)、「冠婚葬祭に使ったため」(10件)、「収入が減ったため」(10件)、「医療費が増えたため」(10件)といったさまざまな支出があげられています。

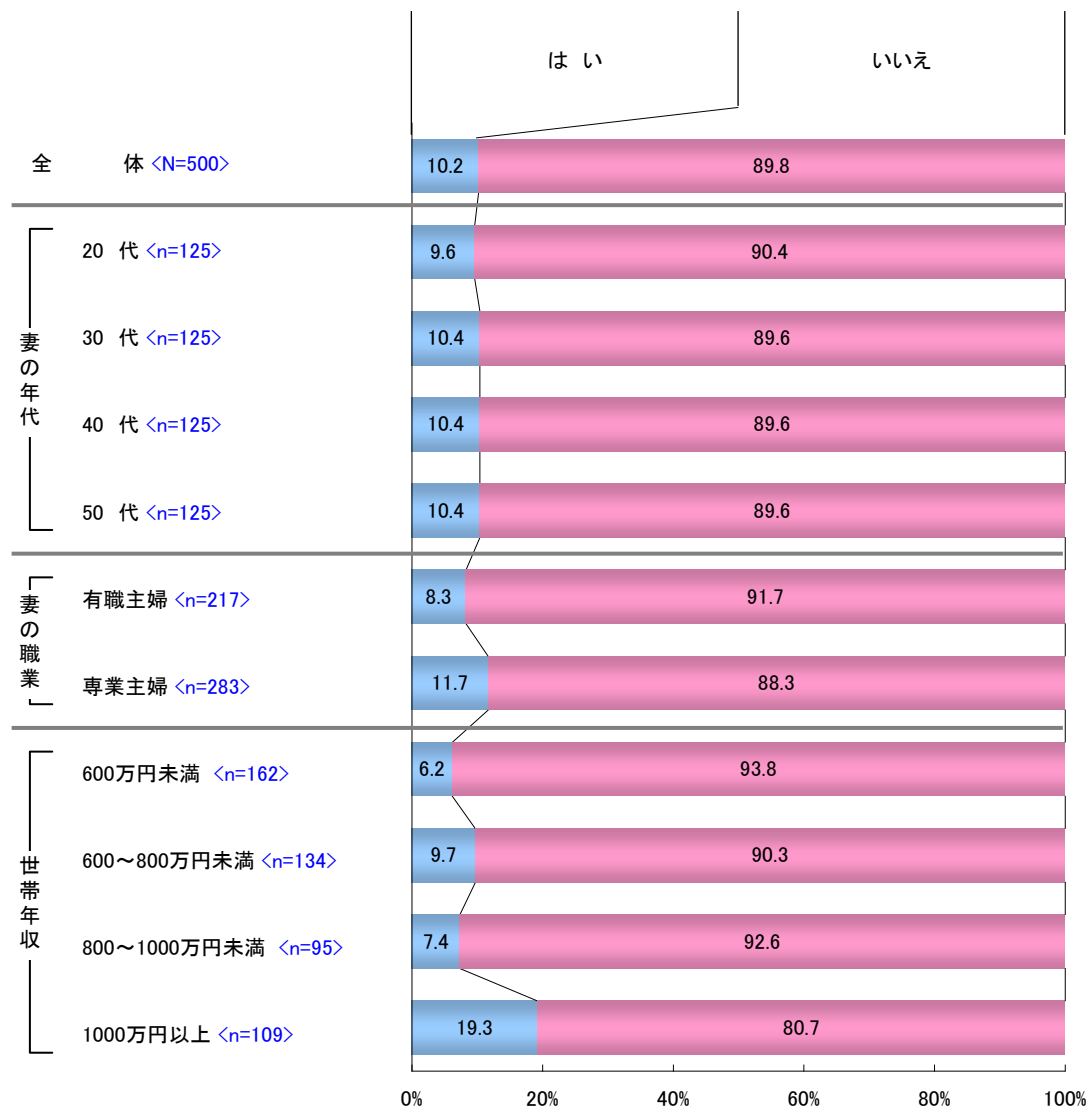
「変わらない」という理由は、「収支が変わらないため」(54 件)が最も多く、以下「ローンや生活費などで貯金できなかったから」(28 件)、「生活に変化がなかったため」(25 件)、「収入が増えても支出も多かったため」(23 件)などとなっています。中には「把握していない・夫がそう言っているから」(8 件)とあまり関心がない人もみられます。

5. 家計において「アベノミクス効果」が感じられるか

「はい」約1割(10.2%)にとどまり、「いいえ」(89.8%)という回答がほとんど。

◆感じられる理由は、「株価が上がった・得をしたから」(22 件)が最も多く、以下「ボーナスが上がったから」(13 件)、「給与が上がったから」(7 件)など。感じられない理由は、「生活に変化がないから」(207 件)、「給与が上がったわけでもないから」(158 件)と“変化がない”こと。

図 14. 家計において「アベノミクス効果」が感じられるか

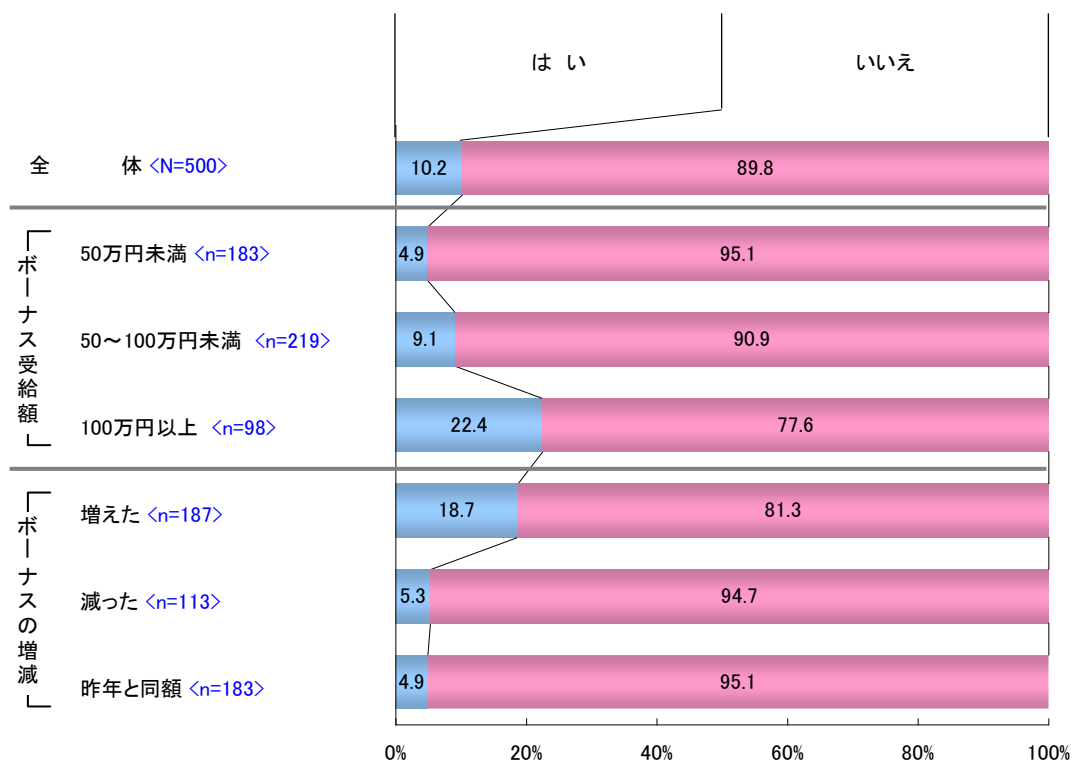


自民党安倍政権の進めている経済政策、いわゆる「アベノミクス」はよく知られていますが、家計において「アベノミクス効果」が感じられているのでしょうか。

「はい」という回答は約1割(10.2%)にとどまり、ほとんどの人は「いいえ」(89.8%)と答えています。

- ・年齢別や妻の職業別にみても、いずれも「はい」は1割前後で、大きな差はありません。
- ・世帯年収別にみると、年収《1000万円以上》の世帯で「はい」(19.3%)の割合が高いのが目立ちます。

図 15. 家計において「アベノミクス効果」が感じられるか（ボーナス受給額・増減別）



- ・ボーナスの受給額別では、受給額が高い人ほど「はい」の割合は高く、特に《100 万円以上》(22.4%) の世帯では2割を超えています。
- ・また、ボーナスの増減別では、《増えた》人で「はい」(18.7%) の割合が高いのが目立ち、「アベノミクス効果」はボーナスの金額で感じている人が多いことがうかがえます。

表 9. 家計において「アベノミクス効果」が感じられる理由、感じられない理由（自由回答：件）

＜感じられる理由＞			＜感じられない理由＞		
順位		件数	順位		件数
1	株価が上がった・得をしたから	22	1	生活に変化がないから	207
2	ボーナスが上がったから	13	2	給与が上がったわけでもないから	158
3	給与が上がったから	7	3	物価が上昇したから	25
4	外貨預金が増えたため	6	4	給与が減ったから	22
5	投資信託が上がったから	3	5	ボーナスが減ったから	7
			6	株など運用していることがなく利益がないから	5

家計において「アベノミクス効果」が感じられる理由は、「株価が上がった・得をしたから」(22 件) が最も多く、一時の株高が大きく影響しているようです。以下、「ボーナスが上がったから」(13 件)、「給与が上がったから」(7 件)、「外貨預金が増えたため」(6 件) などとなっています。

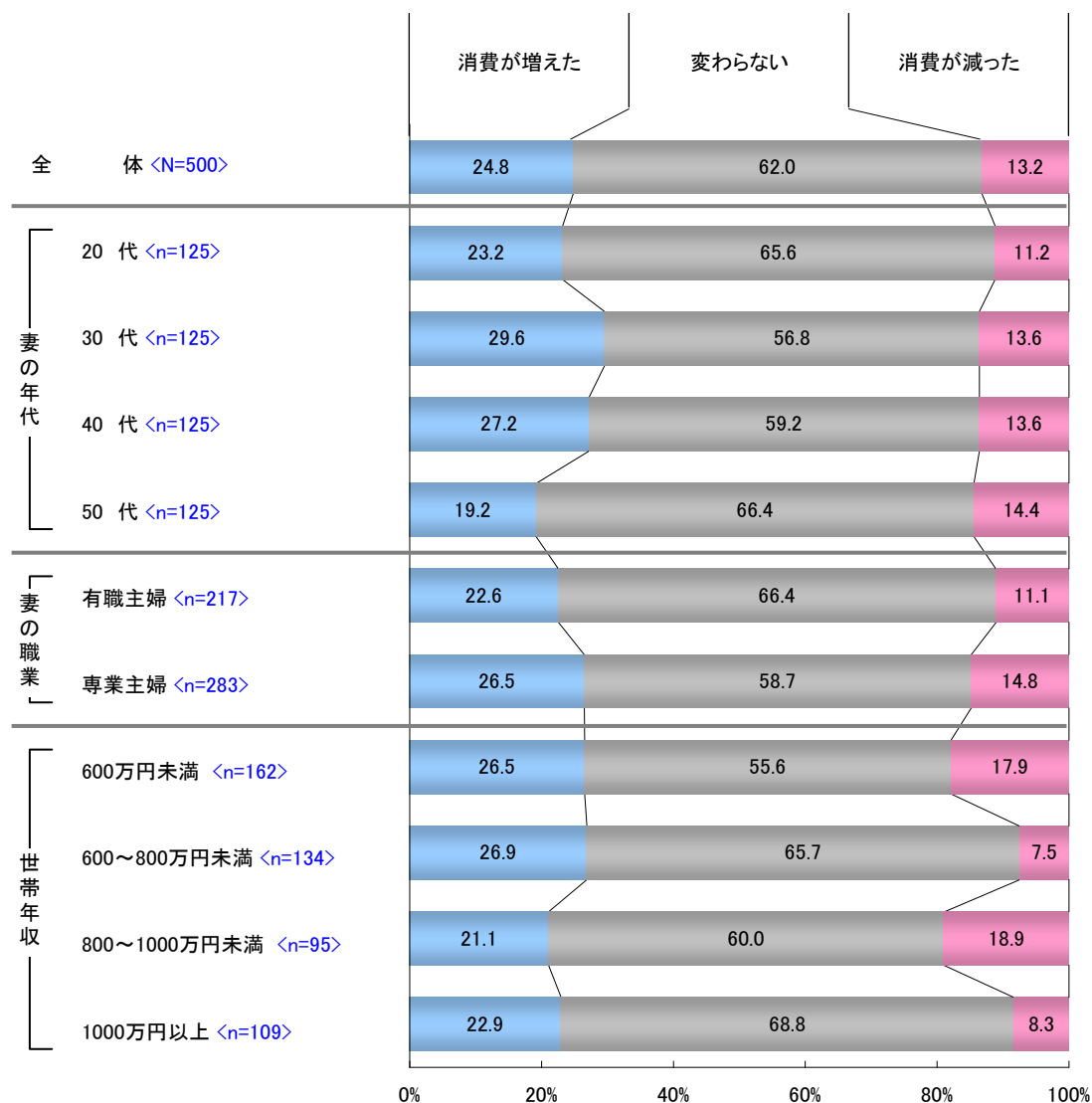
一方、感じられない理由をみると、「生活に変化がないから」(207 件)、「給与が上がったわけでもないから」(158 件) と“変化がない”ことが非常に多く、次いで「物価が上昇したから」(25 件)、「給与が減ったから」(22 件) と逆に“苦しくなった”ことなどがあげられています。

6. 家計の消費に変化は出てきているか

「変わらない」(62.0%)が多いが、そのほかでは「消費が増えた」(24.8%)の方が「消費が減った」(13.2%)よりも 10 ポイント以上高率。

◆増えた理由は、「子供が成長した・教育費が増えたから」(37 件)、「家族が増えたから」(25 件)といった“家庭内の事情”が多いが、「収入が増えたから」(8件)、「遊び・レジャーが増えたから」(5件)、「アベノミクス気分で」(4件)といった“アベノミクス効果”とも言える理由もいくつかあげられる。減った理由は、「節約しているから」(23 件)、「収入が減った・増えないから」(11 件)など。

図 16. 家計の消費に変化は出てきているか

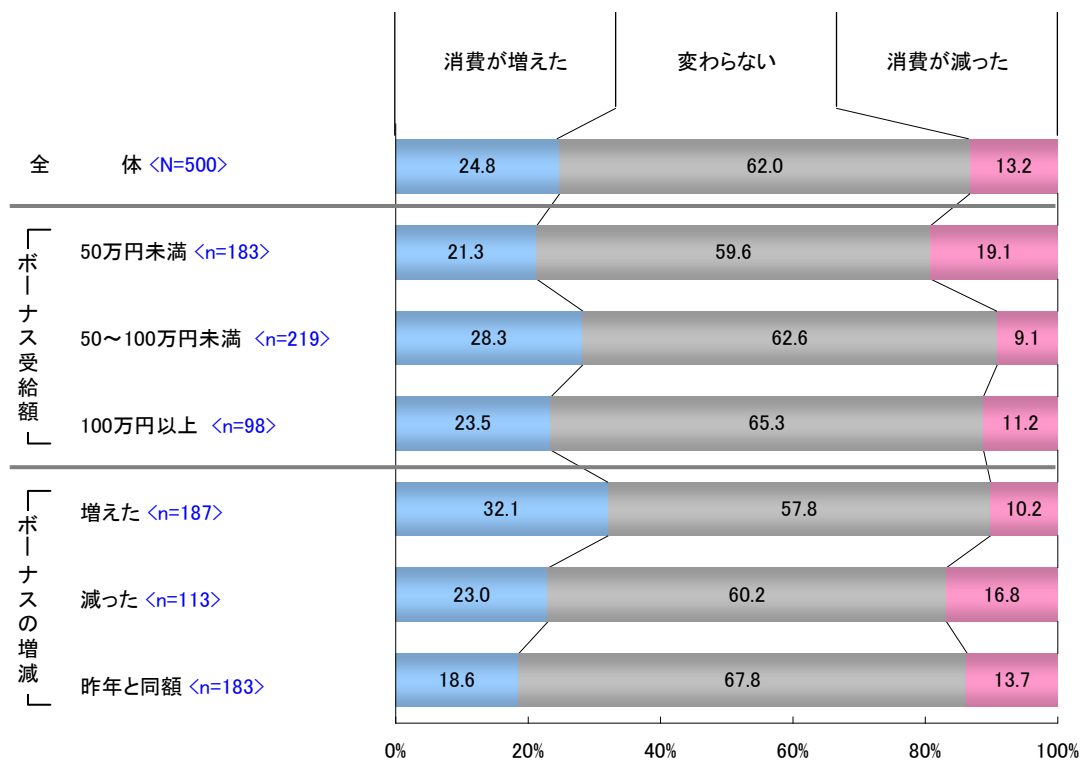


家計の消費に変化は出てきているかどうかをみると、「変わらない」(62.0%)が過半数を占めて主になっていますが、「消費が増えた」(24.8%)と「消費が減った」(13.2%)とでは、「消費が増えた」の方が 10 ポイント以上高い割合となっています。

- ・妻の年代別にみると、「消費が増えた」割合は、《30代》(29.6%)が最も高く、《50代》(19.2%)が最も低くなっています。
- ・妻の職業別ではあまり差はありません。

- ・世帯年収別にみると、「消費が増えた」割合はあまり変わりませんが、「消費が減った」割合は《600～800 万円未満》(7.5%)と《1000 万円以上》(8.3%)で低く、《600 万円未満》(17.9%)、《800～1000 万円未満》(18.9%)で高くなっています。

図 17. 家計の消費に変化は出てきているか（ボーナス受給額・増減別）



- ・ボーナスの受給額別ではあまり顕著な違いはありませんが、「消費が増えた」割合は《50～100 万円未満》(28.3%)で最も高く、「消費が減った」割合は《50 万円未満》(19.1%)で最も高くなっています。
- ・ボーナスの増減別では、「消費が増えた」割合は、ボーナスが《増えた》人で3割強 (32.1%)と高く、ボーナスの増減が消費に大きな影響を与えていることが分かります。

表 10. 家計の消費の変化の理由（自由回答：件）

＜消費が増えた理由＞			＜消費が減った理由＞			＜変わらない理由＞		
順位		件数	順位		件数	順位		件数
1	子供が成長した・教育費が増えたから	37	1	節約しているから	23	1	生活に変化がないから	145
2	家族が増えたから	25	2	収入が減った・増えないから	11	2	給与が上がらないから	34
3	物価が上がったから	11	3	食費が減ったから	7	3	節約しているから	31
4	食費が増えたから	10	4	お金がないから	6	4	今後どうなるかわからないから	15
5	収入が増えたから	8	5	生活が苦しいから	4	5	買いたいものがない・購買欲がないから	9
	買い物が増えたから	8		将来が不安だから	3			
7	遊び・レジャーが増えたから	5	6	ローンの返済に充てているため	3			
8	家の購入やリフォームをしたため	4		今後、出産・結婚式などで出費があるから	3			
	アベノミクス気分で	4						

家計の消費の変化の理由を具体的に聞いてみました。

消費が増えた理由としては、「子供が成長した・教育費が増えたから」（37 件）、「家族が増えたから」（25 件）といった“家庭内の事情”が多くなっているほか、「物価が上がったから」（11 件）、「食費が増えたから」（10 件）、「買い物が増えたから」（8 件）といった“支出増”、そして「収入が増えたから」（8 件）、「遊び・レジャーが増えたから」（5 件）、「アベノミクス気分で」（4 件）といった“アベノミクス効果”とも言える理由もいくつかあげられています。

次いで、**消費が減った理由**は、「節約しているから」（23 件）が最も多く、以下「収入が減った・増えないから」（11 件）、「食費が減ったから」（7 件）、「お金がないから」（6 件）などです。

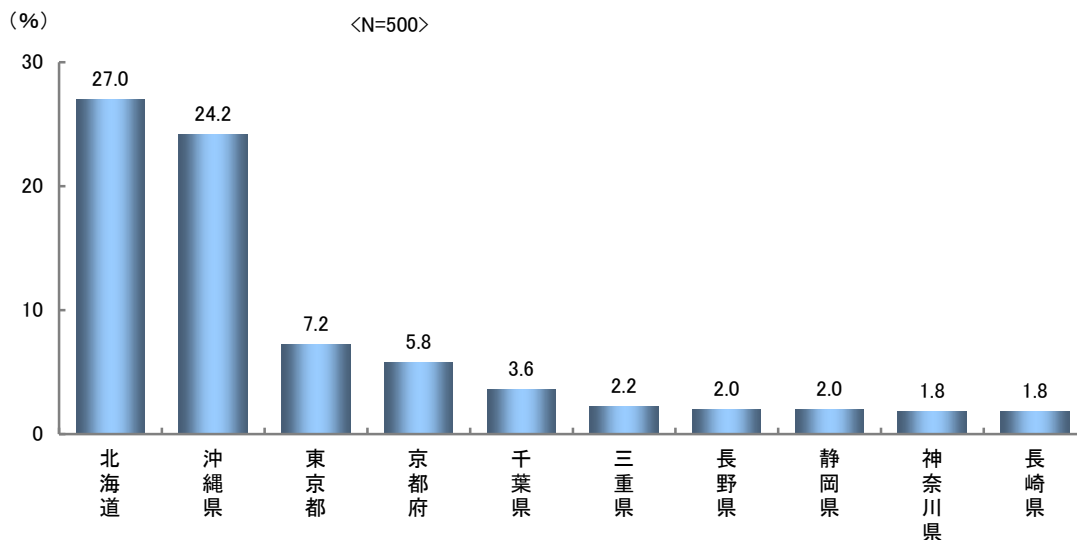
変わらない理由は、「生活に変化がないから」（145 件）が圧倒的に多くなっています。以下、「給与が上がらないから」（34 件）、「節約しているから」（31 件）に次いで、「今後どうなるかわからないから」（15 件）といった将来への不安も大きな理由となっているようです。

7. もし国内旅行するならどの都道府県に行きたいか

「北海道」(27.0%、135件)と「沖縄県」(24.2%、121件)の人气が高い。

◆その都道府県に行ってみたい理由は、北海道は「美味しい食べ物があるから」(29 件)、「行ったことがないから」(27 件)、「自然が豊かだから」(25 件)、「夏の避暑地として」(14 件)など、沖縄県は「海がきれいだから」(42 件)、「のんびりリゾート気分を楽しみたいから」(41 件)、東京都は「スカイツリーを見たいから」(7 件)、「観光名所が多いから」(6 件)など。

図 18. もし国内旅行するならどの都道府県に行きたいか (ベスト 10)



今年のゴールデンウィークは、円安や富士山の世界遺産登録などの理由から、国内旅行が人気でした。では、もし国内旅行するならどの都道府県に行きたいと思っているのでしょうか。

「北海道」(27.0%、135 件)と「沖縄県」(24.2%、121 件)がともに2割台で多く、日本の北端と南端に人気が集まっています。以下、「東京都」(7.2%、36 件)、「京都府」(5.8%、29 件)、「千葉県」(3.6%、18 件)などの順となっています。

表 11. その都道府県に行きたい理由（自由回答：件）

＜北海道＞			＜沖縄県＞			＜東京都＞		
順位		件数	順位		件数	順位		件数
1	美味しい食べ物があるから	29	1	海がきれいだから	42	1	スカイツリーを見たいから	7
2	行ったことがないから	27	2	のんびりリゾート気分を楽しみたいから	41	2	観光名所が多いから	6
3	自然が豊かだから	25	3	行ったことがないから	14			
4	夏の避暑地として	14	4	以前行って良かったから	12			
5	以前行って良かったから	10	5	好きだから	7			
6	のんびりしたいから	5						
	実家がある、親戚がいるから	5						
	旭山動物園に行きたいため	5						

＜京都府＞			＜千葉県＞			＜三重県＞		
順位		件数	順位		件数	順位		件数
1	寺・神社などがあり風情があるため	17	1	ディズニーリゾートに行きたいから	15	1	伊勢神宮に行きたいから	10

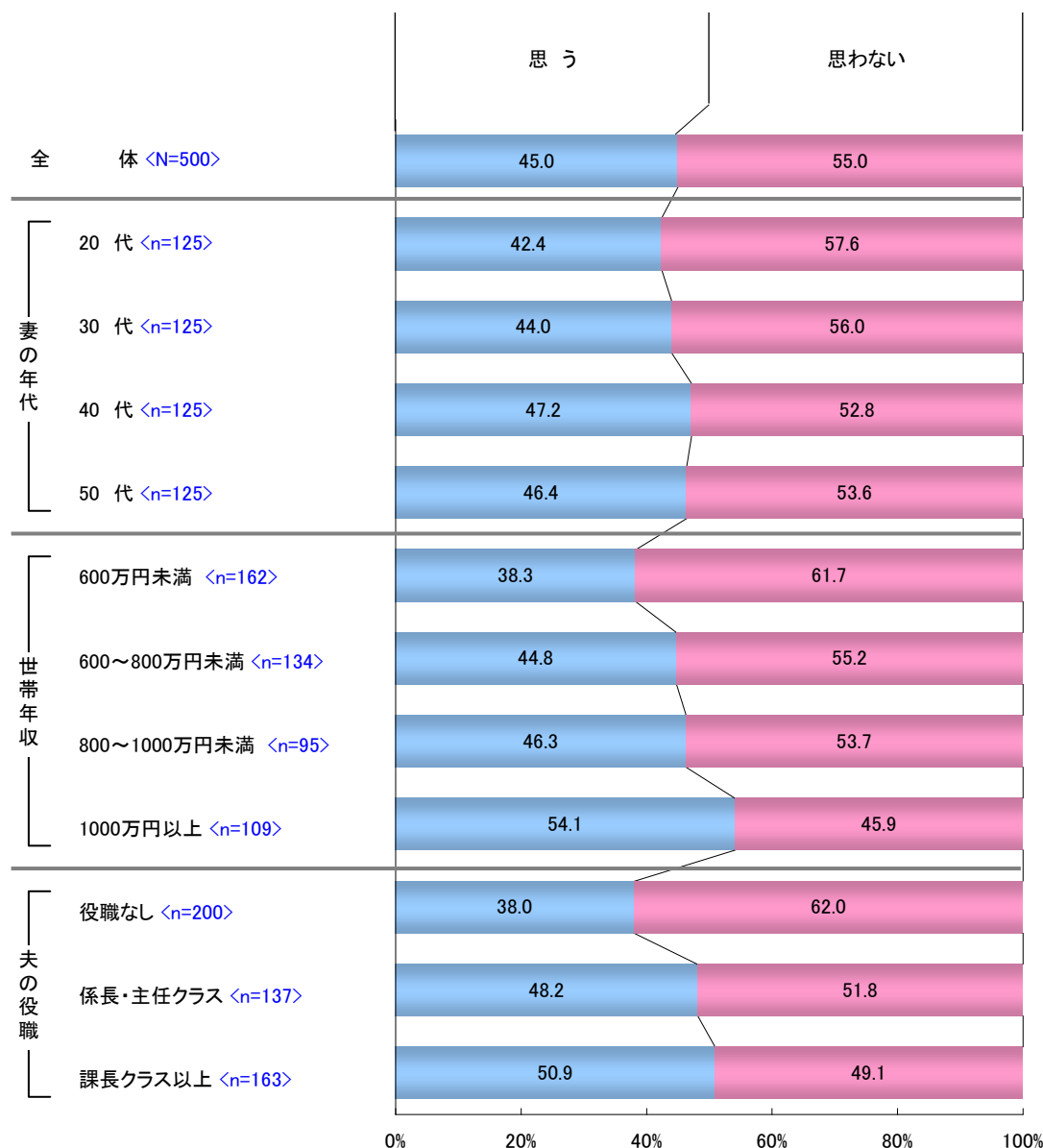
その都道府県に行きたい理由は何か、自由回答で聞いた結果を上位の都道府県についてみると、まず北海道は、「美味しい食べ物があるから」（29 件）、「行ったことがないから」（27 件）、「自然が豊かだから」（25 件）、「夏の避暑地として」（14 件）、「以前行って良かったから」（10 件）などの順となっており、“おいしい食べ物”、“自然の豊かさ”、“夏の涼しさ”などがキーワードとなっています。次いで沖縄県については、「海がきれいだから」（42 件）、「のんびりリゾート気分を楽しみたいから」（41 件）が多くなっています。そのほかの都道府県については、東京都は「スカイツリーを見たいから」（7 件）、「観光名所が多いから」（6 件）、京都府は「寺・神社などがあり風情があるため」（17 件）、千葉県は「ディズニーリゾートに行きたいから」（15 件）、三重県は「伊勢神宮に行きたいから」（10 件）などとなっています。

8. 「ネット選挙」を、政党や候補者の情報収集に活用したいと思うか

半数弱(45.0%)が活用したいと思う。

◆活用したいと思う理由は、「今までより多くの情報を得られると思うから」(64 件)、「便利・手軽だから」(55 件)、「情報収集しやすいから」(43 件)、「いつでも閲覧できるから」(28 件)など有用な情報源としての期待。活用したいと思わない理由は、「興味がないから」(96 件)が突出して多く、次いで「面倒だから」(27 件)など“関心のなさ”。

図 19. 「ネット選挙」を、政党や候補者の情報収集に活用したいと思うか



夏の参議院選挙からインターネットを通じて選挙運動ができる「ネット選挙」が一部解禁になりました。この「ネット選挙」を、政党や候補者の情報収集に活用したいと思うかどうかをみると、「思う」(45.0%)のは半数弱で、「思わない」(55.0%)という人の方がやや多くなっています。

・妻の年代別にみると、年代が上がるほど「思う」という割合がやや高くなっていますが、あまり大きな差ではありません。

- ・世帯年収別では世帯年収が上がるほど、夫の役職別では役職が高いほど、「思う」とする割合は高くなる傾向が強くなっています。

表 12. そう思う理由（自由回答：件）

＜活用したいと思う理由＞			＜活用したいと思わない理由＞		
順位		件数	順位		件数
1	今までより多くの情報を得られると思うから	64	1	興味がないから	96
2	便利・手軽だから	55	2	面倒だから	27
3	情報収集しやすいから	43	3	信憑性がないから	24
4	いつでも閲覧できるから	28	4	これまでの媒体で十分だから	20
5	新しいので試しに活用	11		政治・政治家に期待していないから	20
	家でも情報を得られるから	11	6	そもそもよくわからない	13
			7	時間がないため	11
			8	ネットがよくわからない・苦手だから	6

前問の回答の理由を聞いた結果をみると、まず、活用したいと思う理由は、「今までより多くの情報を得られると思うから」（64 件）、「便利・手軽だから」（55 件）、「情報収集しやすいから」（43 件）、「いつでも閲覧できるから」（28 件）などの順で、有用な情報源として期待しているようです。

一方、活用したいと思わない理由は、「興味がないから」（96 件）が突出して多く、次いで「面倒だから」（27 件）と、“関心のなさ”が最も大きな理由ですが、そのほか「信憑性がないから」（24 件）といった“信頼性”や、「これまでの媒体で十分だから」（20 件）、「政治・政治家に期待していないから」（20 件）などの理由もみられます。

9. 夫が出世するために投資できること

「資格取得」(146 件)、「英会話」(39 件)など、“夫のスキルアップ”が断然多い。以下、「身の回り品(鞆、靴、時計など)」(27 件)、「スーツ」(19 件)といった“身につけるもの”や、「交際費」(22 件)、「ゴルフ(接待含む)」(18 件)などには投資できる。

表 13. 夫が出世するために投資できること

順位		件数
1	資格取得	146
2	英会話	39
3	身の回り品(鞆、靴、時計など)	27
4	交際費	22
5	スーツ	19
	希望するものは何でも	19
7	ゴルフ(接待含む)	18
8	スキルアップの教材やスクール	16
9	書籍	9
10	健康管理	8

終身雇用や年功序列などの日本型雇用制度は崩れつつあると言われていますが、「夫が出世できるならば」と投資できることがあるかどうか、自由回答で聞いてみたところ、「資格取得」(146 件)が圧倒的に多く、次いで「英会話」(39 件)や「スキルアップの教材やスクール」(16 件)など、“夫のスキルアップ”をあげる人が多くなっています。以下、「身の回り品(鞆、靴、時計など)」(27 件)、「スーツ」(19 件)といった“身につけるもの”や、「交際費」(22 件)、「ゴルフ(接待含む)」(18 件)などの費用、そして「希望するものは何でも」(19 件)という回答もみられます。

なお、その他少数回答の中には「内助の功で海外での勤務を支援する」や「株・不動産」といった夫への投資よりも“金融資産”に投資したい、「定年が近いので投資は考えにくい」などという回答もみられました。

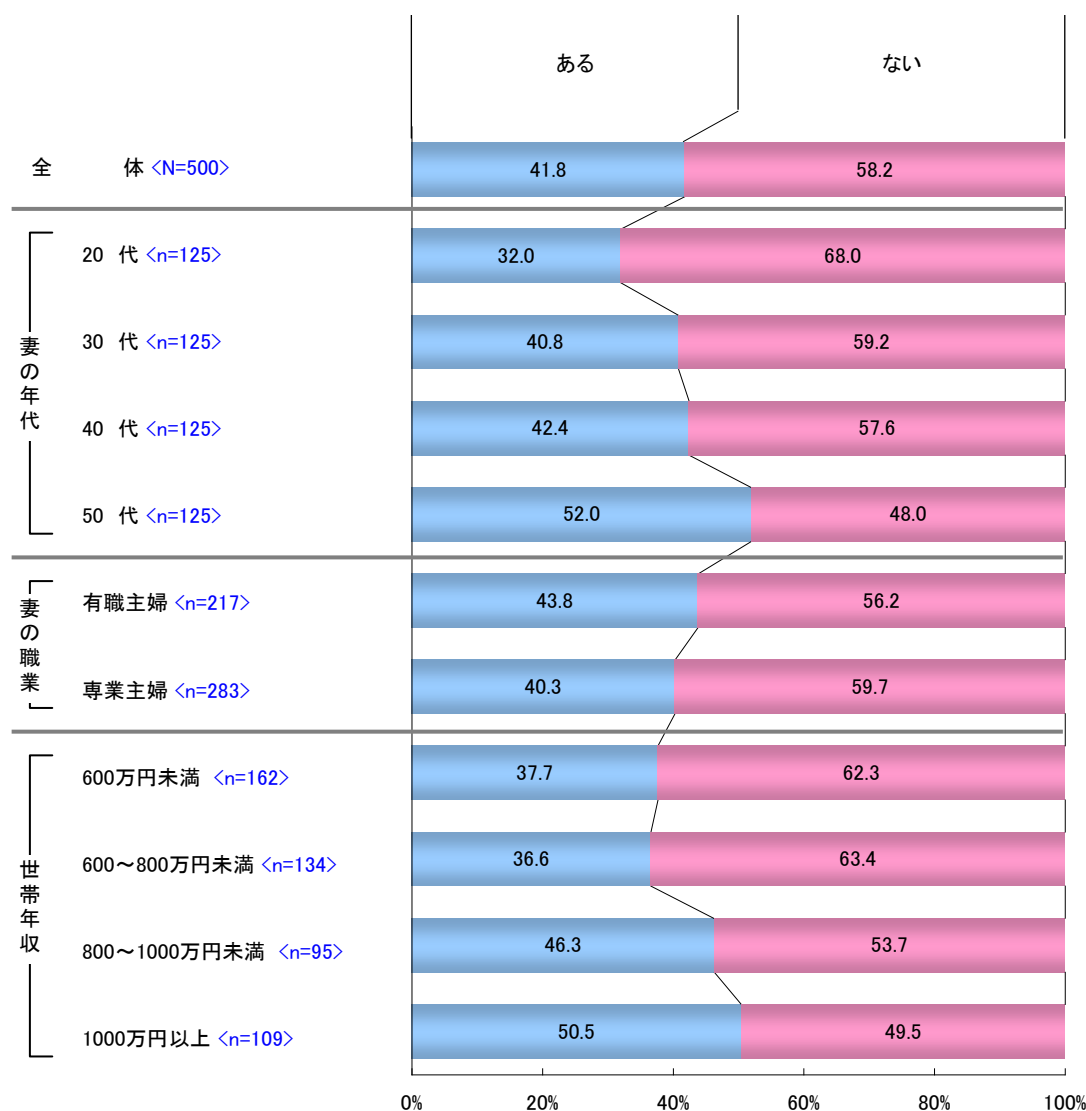
Ⅲ 夫に内緒の資産

1. 『夫に内緒の資産』の保有状況

5人に2人強(41.8%)が『夫に内緒の資産』を“持っている”。

※『夫に内緒の資産』とは、へそくり、結婚前働いていたときに貯めたお金、結婚後自分が働いて貯めたお金、資産運用で得たお金、実家の財産分与など“夫に話していない妻名義の資産”すべてを指します。“意図的に隠している”ものに限られません。

図 20. 『夫に内緒の資産』の有無



サラリーマン世帯の主婦は、『夫に内緒の資産』をどのくらいの割合の人が持っているのでしょうか。『夫に内緒の資産』があるかについて聞いてみたところ、4割強(41.8%)が「ある」と回答しています。

- ・妻の年代別にみると、「ある」割合、すなわち保有率は年代が上の人ほど高く、最も低い《20代》で3割強(32.0%)、《30代》～《40代》が4割台、《50代》になると5割強(52.0%)に達しています。

- ・妻の職業別にみると、保有率は《有職主婦》（43.8％）の方が《専業主婦》（40.3％）よりやや高めです。
- ・世帯年収別にみると、世帯年収が多くなるほど保有率も高い傾向がみられ、《600 万円未満》の4割弱（37.7％）に対し、《1000 万円以上》は5割（50.5％）と半数に達し、10 ポイント以上の差があります。

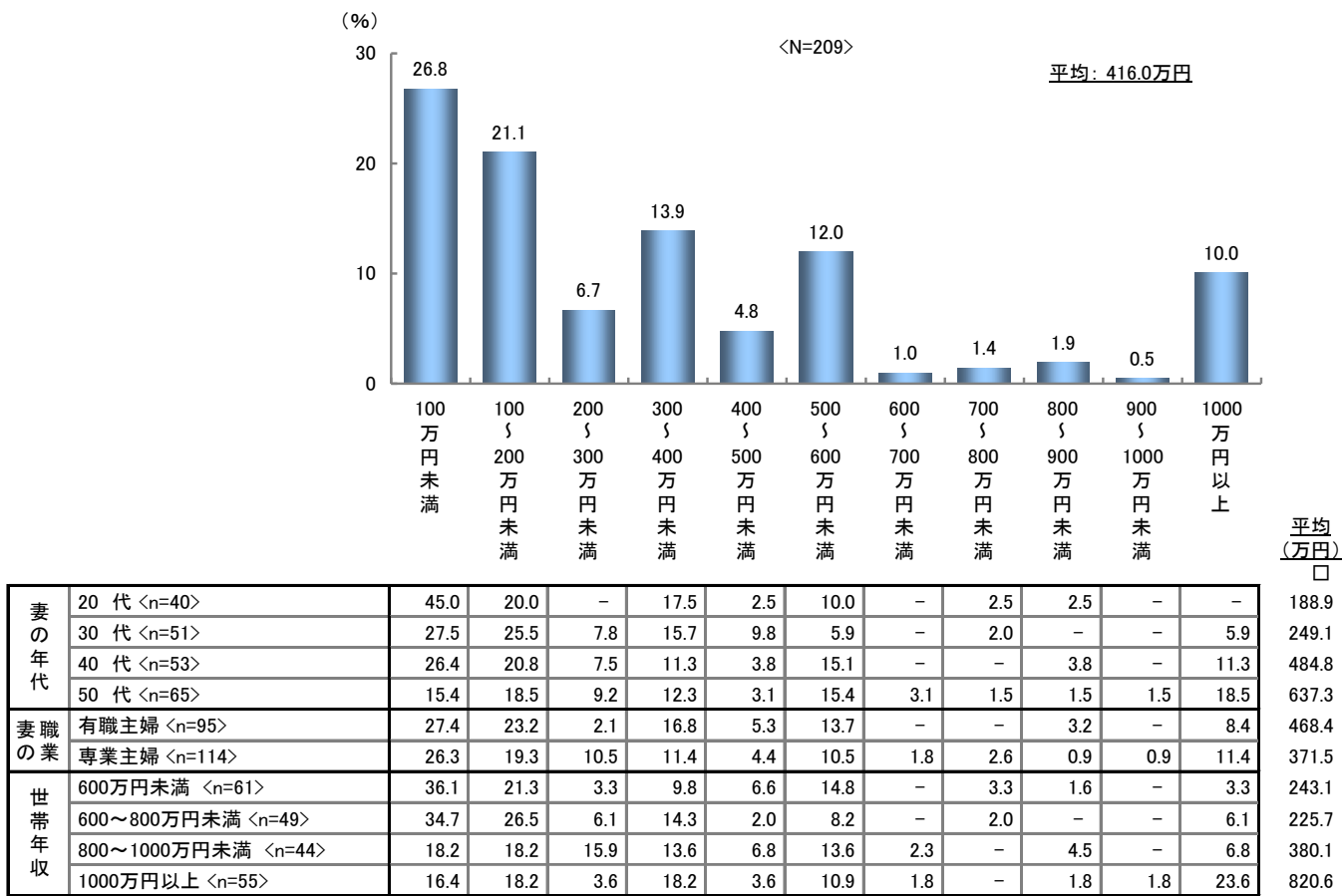
■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べると、『夫に内緒の資産』を持っている人の割合は、43.6％→41.8％とほぼ横ばいとなっています。

2. 『夫に内緒の資産』の保有額

内緒の資産を持っている人の保有額は、ほぼ半数(47.9%)が「100 万円未満」(26.8%)～「100～200 万円未満」(21.1%)の範囲で、平均額は「416 万円」。

図 21. 『夫に内緒の資産』をいくらか持っているか



次に、『夫に内緒の資産』を持っている人（209 名）にその金額を聞いてみたところ、「100 万円未満」（26.8%）が最も多く、続く「100～200 万円未満」（21.1%）を合わせた“200 万円未満”（47.9%）がほぼ半数を占めています。以下「300～400 万円未満」（13.9%）、「500～600 万円未満」（12.0%）、「1000 万円以上」（10.0%）がそれぞれ 1 割台で続いています。中には「1 億 7 千万円」、「1 億円」という人がそれぞれ 1 名いますが、その 2 名を除いた資産保有額の平均は、「416.0 万円」です。

- ・妻の年代別に資産額の平均をみると、年代が上の人ほど多くなる傾向がみられ、《50 代》（637.3 万円）では《20 代》（188.9 万円）の 3 倍以上の値となっています。
- ・妻の職業別にみると、《有職主婦》（468.4 万円）と《専業主婦》（371.5 万円）で 100 万円近い差があり、仕事を持っている主婦の方が多く『夫に内緒の資産』を持っています。
- ・世帯年収別にみると、年収が高い家庭の主婦ほど資産額が高くなる傾向がみられます。《600 万円未満》（243.1 万円）、《600～800 万円未満》（225.7 万円）、《800～1000 万円未満》（380.1 万円）に比べ、《1000 万円以上》になると平均「820.6 万円」と、大差がみられます。

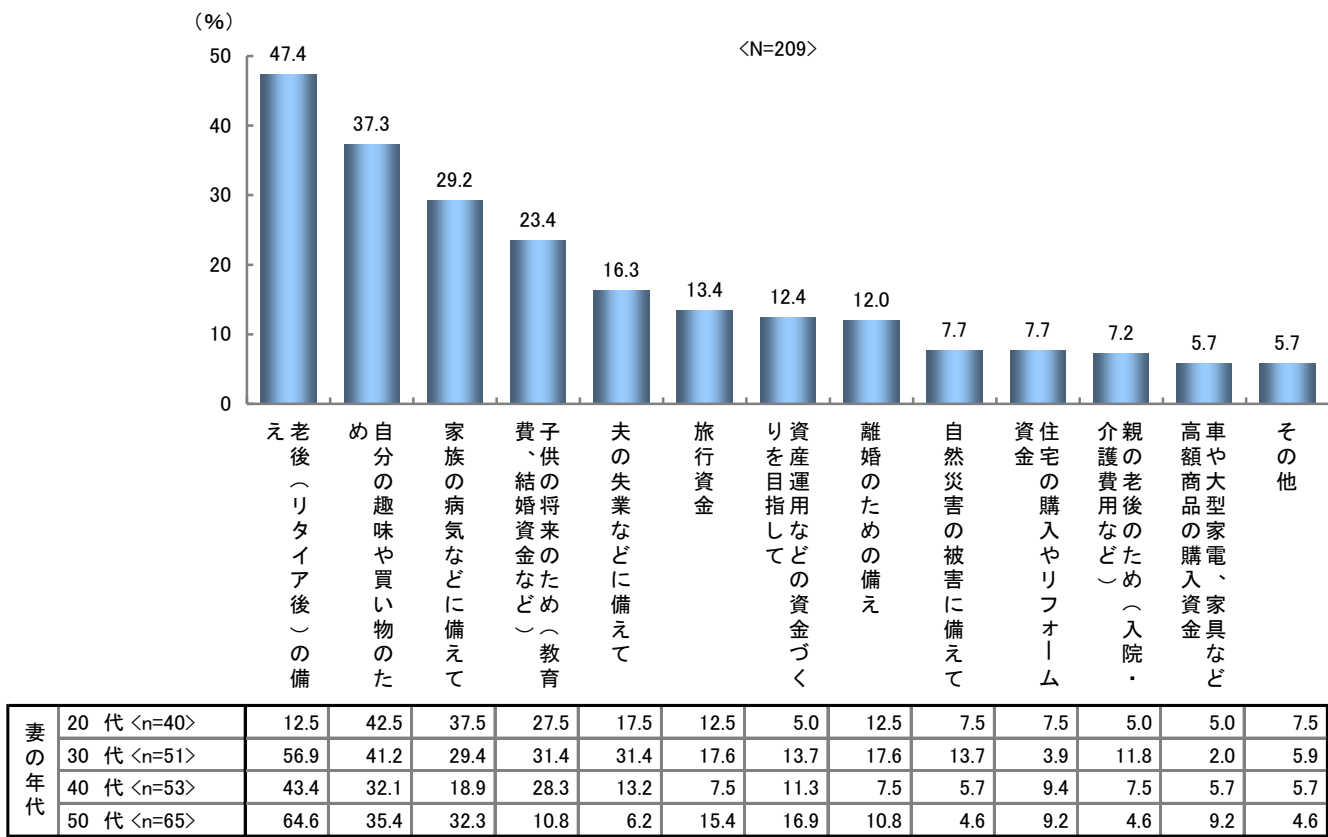
■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べると、平均金額は 384.3 万円→416.0 万円と、30 万円以上（31.7 万円）アップしています。

3. 『夫に内緒の資産』を持つ目的

「老後(リタイア後)の備え」(47.4%)、「自分の趣味や買い物のため」(37.3%)、「家族の病気などに備えて」(29.2%)がトップ3。

図 22. 『夫に内緒の資産』を持つ目的（複数回答）



『夫に内緒の資産』をどのようなことに使うために持っているのかを聞いてみたところ、「老後（リタイア後）の備え」（47.4%）が第一で、以下「自分の趣味や買い物のため」（37.3%）、「家族の病気などに備えて」（29.2%）、「子供の将来のため（教育費、結婚資金など）」（23.4%）、「夫の失業などに備えて」（16.3%）、「旅行資金」（13.4%）が続いています。中には「離婚のための備え」をあげる人が1割強（12.0%）います。

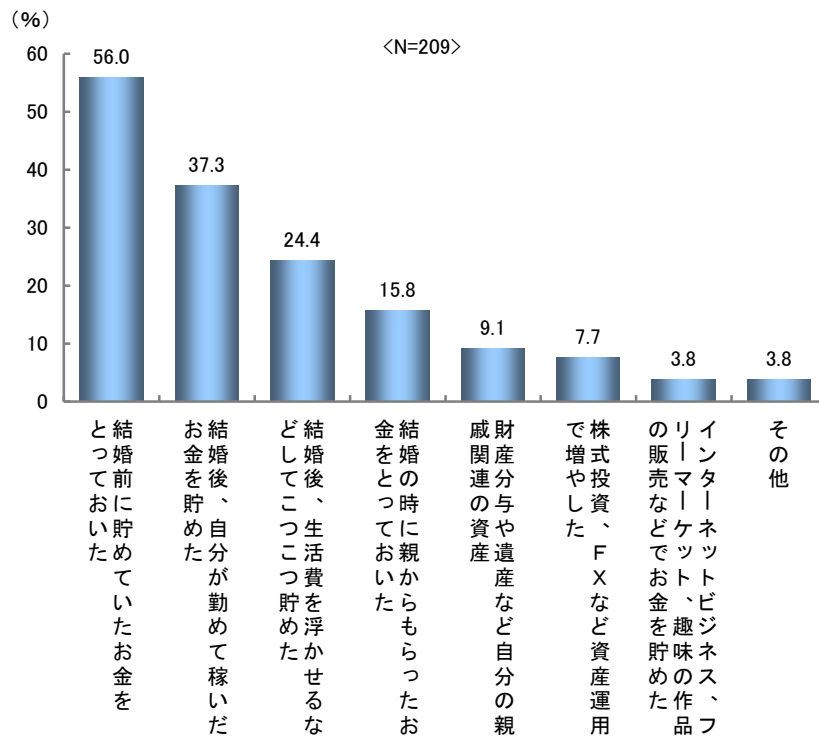
自分のために使うのはもちろんですが、“将来の備え”のために『夫に内緒の資産』を持っている主婦も多いようです。

・妻の年代別にみると、《20代》は「老後（リタイア後）の備え」（12.5%）が他の年代に比べ極端に低く、「自分の趣味や買い物のため」（42.5%）、「家族の病気などに備えて」（37.5%）、「子供の将来のため（教育費、結婚資金など）」（27.5%）がトップ3です。《30代》～《50代》は「老後の備え」がトップ。特に《50代》では6割強（64.6%）と高率です。なお、《30代》で「夫の失業に備えて」をあげる割合が3割強（31.4%）と、他の年代に比べて目立ちます。

4. 『夫に内緒の資産』はどのようにして得たものか

「結婚前に貯めていたお金をとっておいた」(56.0%)、「結婚後、自分が勤めて稼いだお金を貯めた」(37.3%)、「結婚後、生活費を浮かせるなどしてこつこつ貯めた」(24.4%)など。

図 23. 『夫に内緒の資産』はどのようにして得たものか（複数回答）



『夫に内緒の資産』をどのようにして得たかについては、「結婚前に貯めていたお金をとっておいた」(56.0%)が最も多く、次いで「結婚後、自分が勤めて稼いだお金を貯めた」(37.3%)があげられており、“自分で働いて貯めた”お金が内緒の資産の原資になっている人が多いようです。以下、「結婚後、生活費を浮かせるなどしてこつこつ貯めた」(24.4%)、「結婚の時に親からもらったお金をとっておいた」(15.8%)などとなっています。

また、「財産分与や遺産など自分の親戚関連の資産」(9.1%)、「株式投資、FXなど資産運用で増やした」(7.7%)「インターネットビジネス、フリーマーケット、趣味の作品の販売などでお金を貯めた」(3.8%)という人もそれほど多くありませんが、みられます。

表 14. 『夫に内緒の資産』はどのようにして得たものか（複数回答：内緒の資産額別）

(%)

	サ ン プ ル 数	結 婚 前 に 貯 め て い た お 金 を	結 婚 後 、 自 分 が 勤 め て 稼 い だ お 金 を 貯 め た	結 婚 後 、 生 活 費 を 浮 か せ る こ つ こ つ を 貯 め た	結 婚 の 時 に 親 か ら も ら っ た お 金	親 財 産 分 与 や 遺 産 な ど 自 分 の 親 戚 関 連 の 資 産	株 式 投 資 、 F X な ど 資 産 運 用 で 増 や し た	ど い ん た ー ネ ッ ト ビ ジ ネ ス な ど お 金 を 貯 め た	そ の 他
全 体	209	56.0	37.3	24.4	15.8	9.1	7.7	3.8	3.8
内 緒 の 資 産	100万円未満	56	39.3	35.7	26.8	10.7	3.6	7.1	7.1
	100～200万円未満	44	56.8	36.4	34.1	13.6	6.8	4.5	—
	200～300万円未満	14	57.1	28.6	28.6	21.4	7.1	7.1	7.1
	300～500万円未満	39	69.2	35.9	12.8	25.6	7.7	—	—
	500～1000万円未満	35	71.4	37.1	20.0	17.1	17.1	—	2.9
	1000万円以上	21	47.6	52.4	23.8	9.5	28.6	4.8	9.5

内緒の資産額別の傾向をみると、“1000 万円未満”までは、いずれもトップが「結婚前に貯めていたお金をとっておいた」、2位に「結婚後、自分が勤めて稼いだお金を貯めた」があげられています。《1000 万円以上》になると、「財産分与や遺産など自分の親戚関連の資産」、「株式投資、F Xなど資産運用で増やした」（各 28.6%）が“1000 万円未満”に比べて目につきます。また、「結婚後、自分が勤めて稼いだお金を貯めた」（52.4%）も“1000 万円未満”に比べて高い割合です。

なお、前述した高額資産者の理由をみると、

- ・1 億 7 千万円-----「結婚後、自分が勤めて稼いだお金を貯めた」「株式投資、F Xなど資産運用で増やした」「結婚前に貯めていたお金をとっておいた」「財産分与や遺産など自分の親戚関連の資産」

- ・1 億円-----「財産分与や遺産など自分の親戚関連の資産」

となっています。

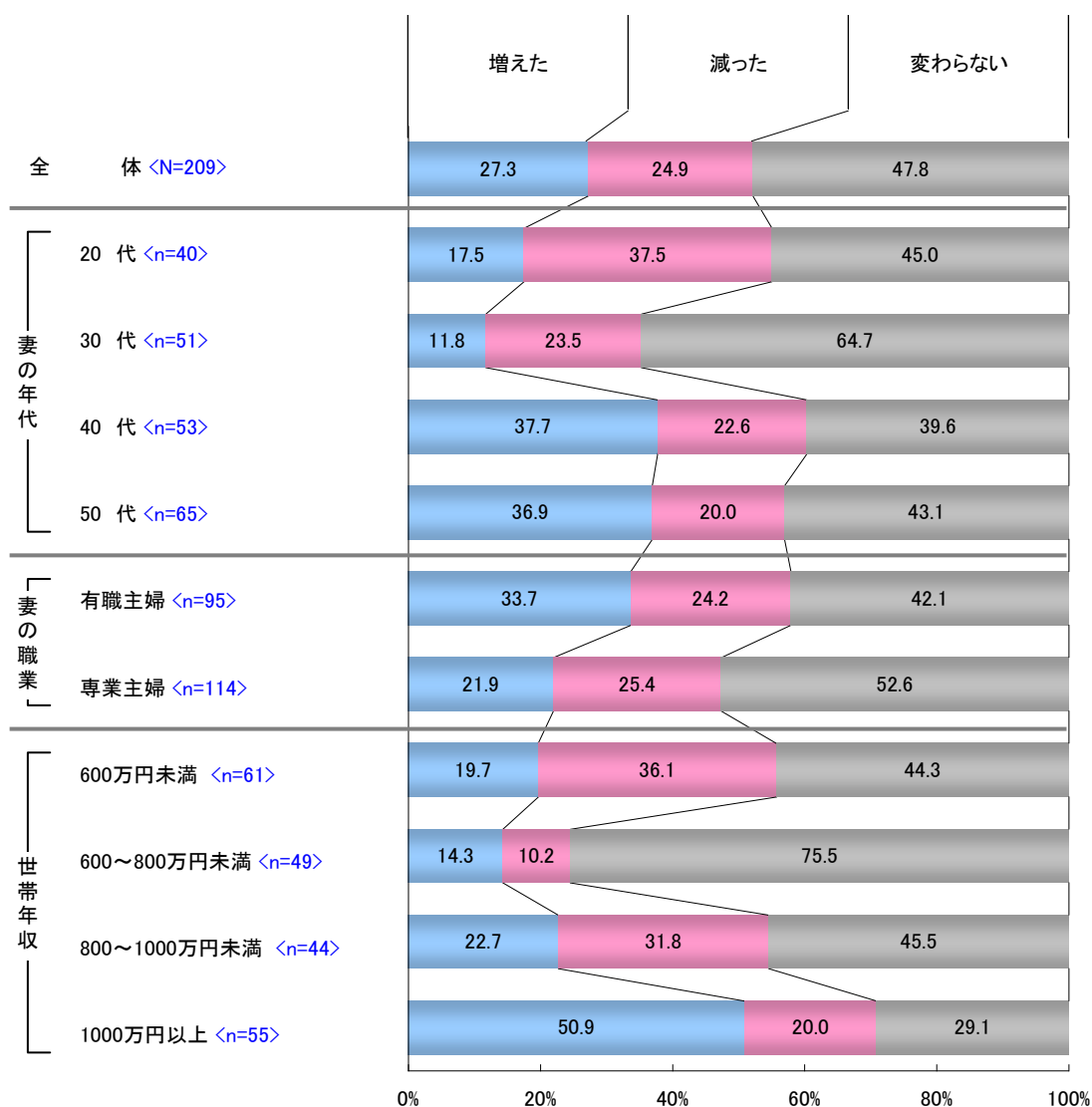
5. 『夫に内緒の資産』の増減

今年に入ってから“夫に内緒の資産”の増減は、ほぼ半数は「変わらない」(47.8%)が、「増えた」(27.3%)が「減った」(24.9%)をわずかに上回る。

◆増えた理由は、「将来が不安なので蓄える額を増やした」(35.1%)、「自分の収入や夫の収入が増えた」(24.6%)が主。

◆減った理由は、「家計の赤字の穴うめに使った」(36.5%)が第一。

図 24. 今年に入ってから『夫に内緒の資産』の増減



今年に入ってから『夫に内緒の資産』の増減を聞いてみたところ、「変わらない」(47.8%)がほぼ半数を占めていますが、「増えた」(27.3%)人の方が「減った」(24.9%)人より多めです。

・妻の年代別にみると、若い人ほど「減った」という割合が高く、《20代》～《30代》では「増えた」を上回っています。《40代》、《50代》では「増えた」が順に37.7%、36.9%と《20代》～《30代》の1割台に比べて高く、「減った」を上回っているのが特徴的です。

・妻の職業別にみると、「増えた」は《有職主婦》(33.7%)の方が《専業主婦》(21.9%)を12ポイントほど上

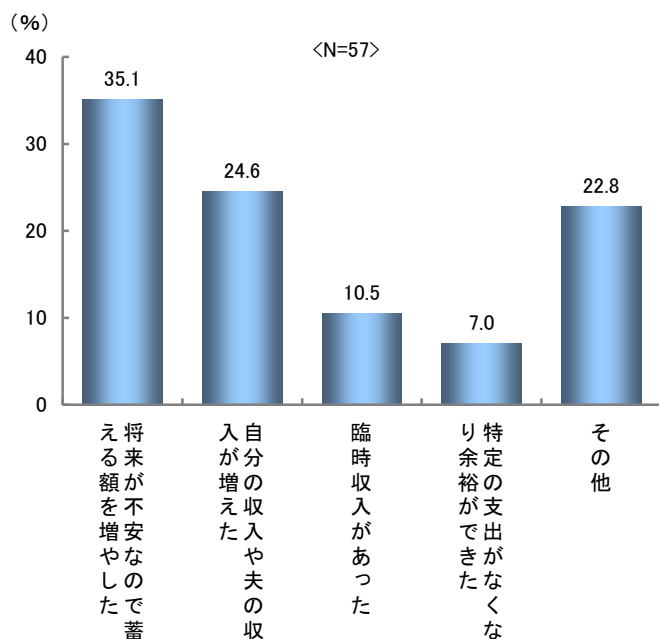
回っています。

- ・世帯年収別にみると、『1000万円以上』では「増えた」(50.9%)が半数を占めているのが目につきます。

■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べると、「減った」(30.7%→24.9%)が約6ポイント減少しており、その分「増えた」(24.8%→27.3%)、「変わらない」(44.5%→47.8%)がそれぞれやや増えています。

図 25. 『夫に内緒の資産』が増えた最も大きな理由

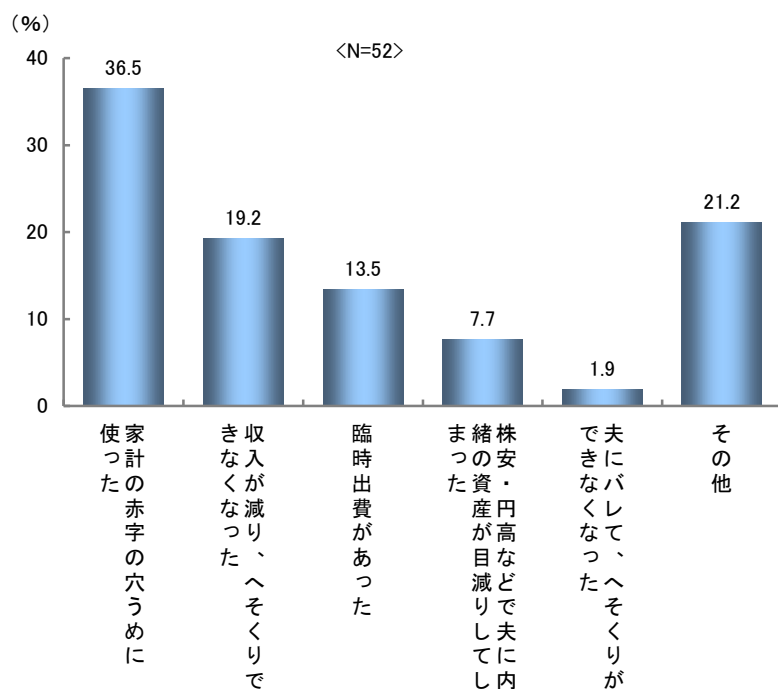


増えた人(57名)の理由をみると、「将来が不安なので蓄える額を増やした」(35.1%)と「自分の収入や夫の収入が増えた」(24.6%)が主になっています。また、「株で儲かった」、「外貨預金」、「結婚、出産祝い」、「バイト代」など「臨時収入があった」(10.5%)という人もいます。

■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果をみると、昨夏でトップの「自分や夫の収入が増えた」(38.9%→24.6%)が14ポイントほど減少しており、昨夏2位の「将来が不安なので蓄える額を増やした」(37.0%→35.1%)もやや減少したものの、今夏は1位になっています。

図 26. 『夫に内緒の資産』が減った最も大きな理由



一方、減った人（52 名）の理由は「家計の赤字の穴うめに使った」（36.5%）が群を抜いています。そのほかでは「収入が減り、へそくりできなくなった」（19.2%）、「臨時出費があった」（13.5%）、「株安・円高などで目減りしてしまった」（7.7%）などとなっています。

なお、「臨時出費があった」（7 名）の具体的な内容としては、“子供の留学”、“海外旅行”、“車の購入”、“家族や友だちとの旅行”などがあげられています。

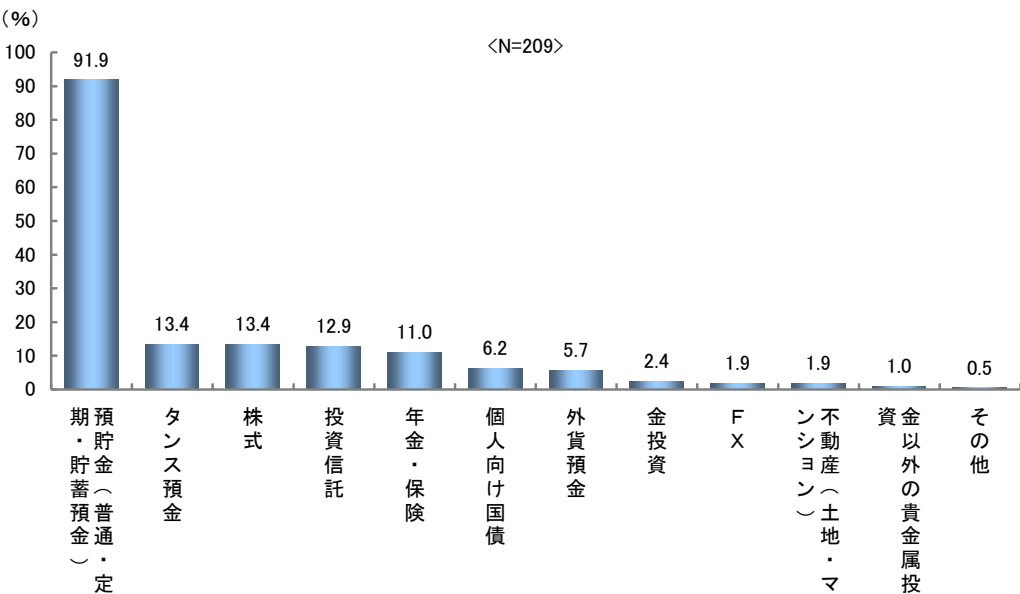
■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果をみると、昨夏もトップの「家計の赤字の穴うめに使った」（44.8%→36.5%）が8ポイントほど減少しています。

6. 『夫に内緒の資産』の保有形態について

『夫に内緒の資産』は、現在「預貯金（普通・定期・貯蓄預金）」（91.9%）で保有している人が圧倒的。
●今後も、やはり「預貯金（普通・定期・貯蓄預金）」（87.6%）で保有したい

図 27. 『夫に内緒の資産』はどのような形で保有しているか（複数回答）

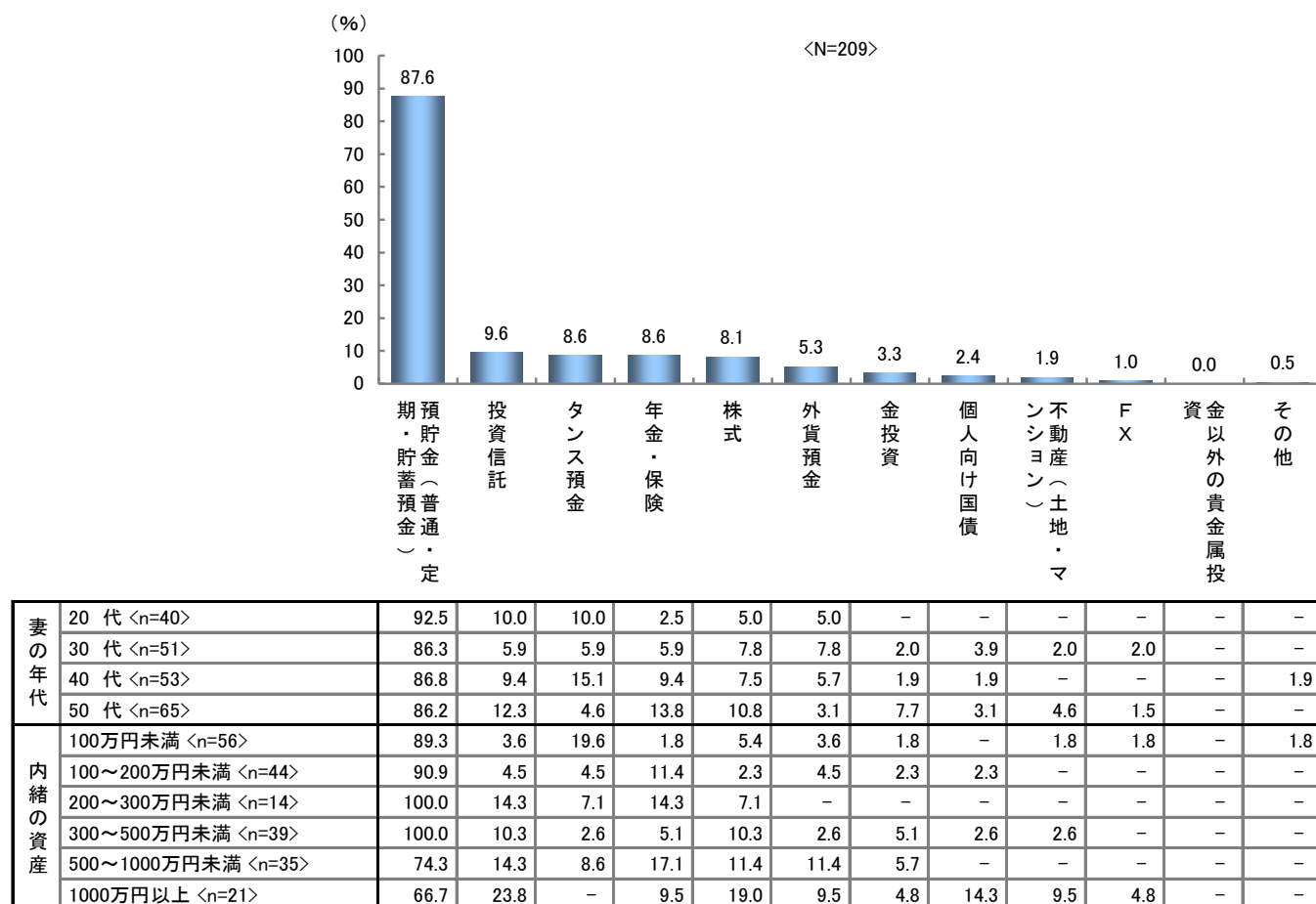


妻の年代	20代<n=40>	95.0	12.5	10.0	5.0	7.5	2.5	2.5	-	-	-	-	-
	30代<n=51>	94.1	15.7	17.6	11.8	3.9	9.8	2.0	3.9	3.9	2.0	2.0	-
	40代<n=53>	94.3	20.8	11.3	13.2	7.5	7.5	5.7	-	-	1.9	-	1.9
	50代<n=65>	86.2	6.2	13.8	18.5	21.5	4.6	10.8	4.6	3.1	3.1	1.5	-
内緒の資産	100万円未満<n=56>	89.3	23.2	7.1	3.6	3.6	1.8	1.8	-	1.8	1.8	-	1.8
	100～200万円未満<n=44>	97.7	13.6	2.3	4.5	11.4	6.8	2.3	2.3	-	-	-	-
	200～300万円未満<n=14>	92.9	7.1	-	14.3	21.4	-	-	-	-	-	-	-
	300～500万円未満<n=39>	97.4	7.7	17.9	10.3	10.3	2.6	-	2.6	-	-	-	-
	500～1000万円未満<n=35>	82.9	8.6	14.3	22.9	17.1	5.7	11.4	2.9	-	-	-	-
	1000万円以上<n=21>	90.5	9.5	52.4	42.9	14.3	28.6	28.6	9.5	14.3	14.3	9.5	-

現在、『夫に内緒の資産』はどのような形で保有しているか、すなわち“へそくりの隠し場所”を聞いてみたところ、「預貯金（普通・定期・貯蓄預金）」（91.9%）が圧倒的に多く、そのほかでは、伝統的な保有形式とも言えそうな「タンス預金」（13.4%）や、「株式」（13.4%）、「投資信託」（12.9%）、「年金・保険」（11.0%）が1割台で続いています。

- ・妻の年代別にみても、いずれも「預貯金（普通・定期・貯蓄預金）」が圧倒的に多くなっていますが、年代が上の人ほど「投資信託」をあげる割合が高くなっています。また、「タンス預金」は《40代》までは年代が上の人ほど高く、《40代》（20.8%）がピーク、《50代》になると6.2%と、低率です。
- ・夫の内緒の資産額別にみると、いずれも「預貯金（普通・定期・貯蓄預金）」が圧倒的に多い点に変わりはありませんが、「タンス預金」は《100万円未満》（23.2%）の少額の場合に多くなっています。一方、「株式」、「投資信託」、「個人向け国債」、「外貨預金」などは内緒の資産が多いほど高い割合となる傾向が強く、特に「株式」は《1000万円以上》（52.4%）では半数を超えています。

図 28. 今後、『夫に内緒の資産』はどのような形で保有したいか（回答は2つまで）



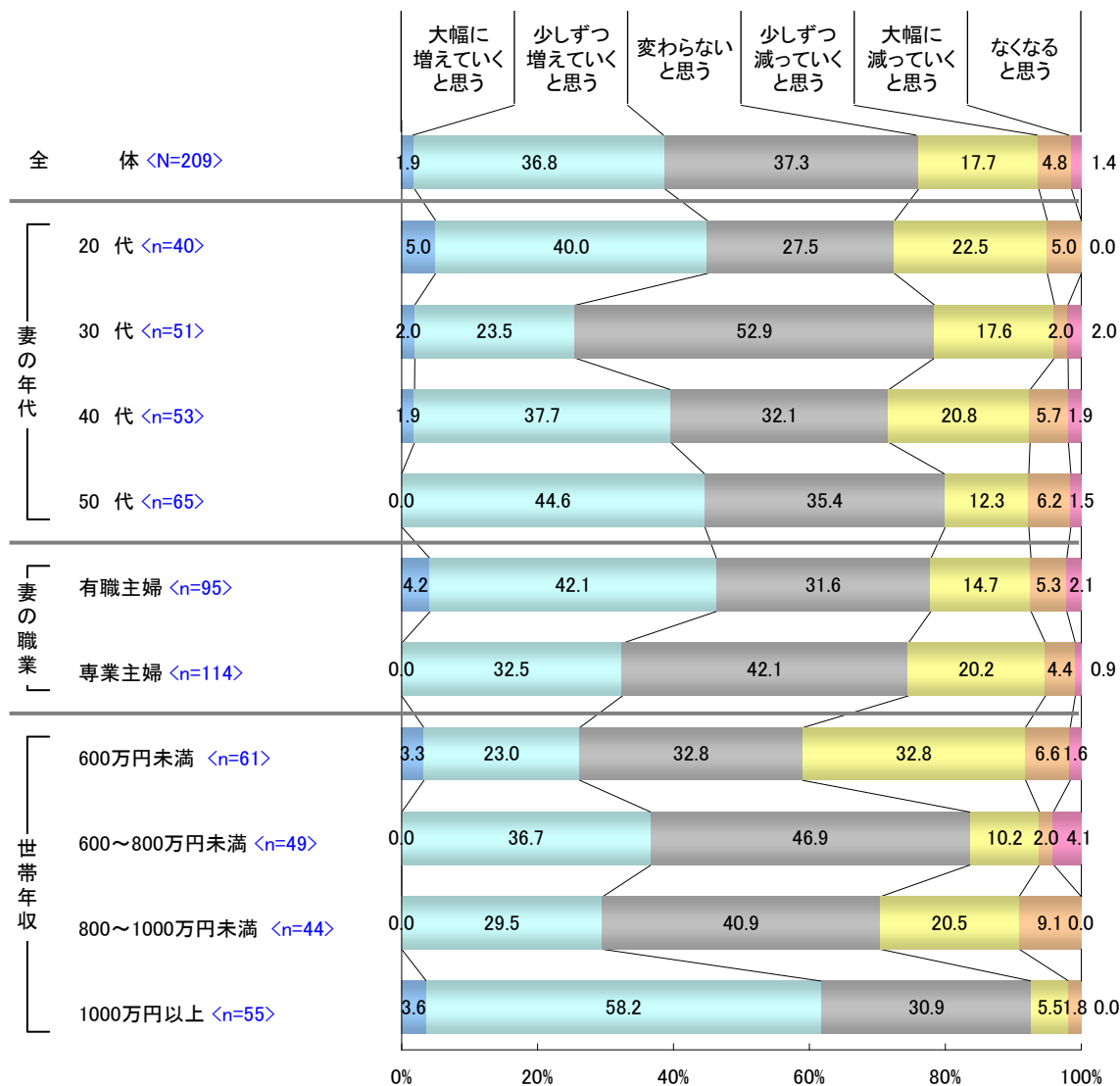
次に、今後は『夫に内緒の資産』をどのような形で保有したいか聞いてみたところ、現在と同様「預貯金（普通・定期・貯蓄預金）」（87.6％）が圧倒的に多くなっています。そのほかでは「投資信託」（9.6％）、「タンス預金」「年金・保険」（各 8.6％）、「株式」（8.1％）がそれぞれ1割弱みられます。

- ・妻の年代別にみても、いずれも「預貯金（普通・定期・貯蓄預金）」が圧倒的に多くなっています。
- ・内緒の資産別にみても、やはりいずれも「預貯金（普通・定期・貯蓄預金）」が圧倒的に多くなっていますが、《1000万円以上》の層では預貯金以外の「投資信託」（23.8％）、「株式」（19.0％）、「個人向け国債」（14.3％）が“1000万円未満”の層に比べて目につきます。
- ・なお、現在の保有形態別にみると、現在「預貯金」で保有している192名のうち、今後も「預貯金」という人が9割強（93.2％）みられます。やはり“安心・安全”にへそくりを保有する方法は預貯金が第一と考えている人が多いようです。そのほか、現在「タンス預金」（28名中53.6％）、「株式」（28名中53.6％）、「投資信託」（27名中55.6％）、「年金・保険」（23名中65.2％）で保有している方の半数以上の方が、同様の形で今後も保有したいと考えているようです。

7. 『夫に内緒の資産』の今後の見通し

『夫に内緒の資産』の今後の見通しは、4割弱が“増えていく”（38.7%）とみている。“減っていく＋なくなる”は2割強（23.9%）。

図 29. 『夫に内緒の資産』の今後の見通し



『夫に内緒の資産』を保有している人に、今後の資産増減の見通しについて聞いてみたところ、「大幅に増えていくと思う」（1.9%）、「少しずつ増えていくと思う」（36.8%）など“増えていくと思う”（38.7%）という人がほぼ5人に2人の割合となっています。一方、「少しずつ減っていくと思う」（17.7%）、「大幅に減っていくと思う」（4.8%）、さらに「なくなると思う」（1.4%）など“減っていく＋なくなると思う”（23.9%）という人は2割強です。また、「変わらないと思う」人も4割弱（37.3%）みられます。

・妻の年代別にみると、“増えていくと思う”割合は《20代》（45.0%）と《50代》（44.6%）が《30代》（25.5%）や《40代》（39.6%）に比べて高くなっているのが目につきます。

・妻の職業別にみると、“増えていくと思う”は《有職主婦》（46.3%）が《専業主婦》（32.5%）より高くなっています。

・世帯年収別にみると、年収《600 万円未満》で、“減っていく＋なくなると思う”（41.0%）、《1000 万円以上》で“増えていくと思う”（61.8%）割合が目立ちます。

■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果をみると、“減っていく＋なくなる”（34.4%→23.9%）が 10 ポイント以上減り、その分“増えていく”（33.5%→38.8%）や「変わらない」（32.1%→37.3%）との見方が増えています。

表 15. 『夫に内緒の資産』の見通しの理由（自由回答：件）

＜増えていくと思う理由＞			＜減っていくと思う理由＞			＜変わらないと思う理由＞		
順位		件数	順位		件数	順位		件数
1	継続して貯めているため	25	1	生活費に充てているため	13	1	増やす余裕がないから	16
2	働き始めたから・まだ働くつもりだから	18	2	自分が仕事を辞めたから・働いていないから	10	2	特に使う予定がないから	15
3	収入が増えたから	8	3	使う機会が増えているから	9	3	増やす気がないから・手を付けなかつもりだから	14
	株・投資など運用しているから	8	4	子供の教育費などに回すから	8		収入の増減の予定がないため	14
5	生活費などを節約しているから	7	5	収入が減っているため	7	5	貯めた分だけ使っているから	5
	増やしたいという気持ちがあるから	7						
7	ローンが終わるから・支出が減るから	3						

『夫に内緒の資産』の見通しについて、その理由を具体的に聞いてみました。

“増えていくと思う”理由 は、「継続して貯めているため」（25 件）が最も多く、以下「働き始めたから・まだ働くつもりだから」（18 件）、「収入が増えたから」（8 件）、「株・投資など運用しているから」（8 件）などの順となっています。

“減っていくと思う”理由 としては、「生活費に充てているため」（13 件）、「自分が仕事を辞めたから・働いていないから」（10 件）、「使う機会が増えているから」（9 件）、「子供の教育費などに回すから」（8 件）などがあげられています。

“変わらないと思う”理由 は、「増やす余裕がないから」（16 件）、「特に使う予定がないから」（15 件）、「増やす気がないから・手を付けなかつもりだから」（14 件）、「収入の増減の予定がないため」（14 件）などです。